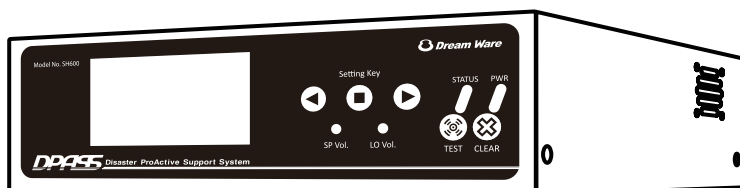


DPASS

Disaster ProActive Support System

取扱説明書

- SH600-J -



本製品は緊急地震速報を受信し、各地での震度、到達時間を瞬時に予測演算し報知を行うものです。

緊急地震速報のシステム上、報知が実際の地震到達に間に合わなかったり、予測数値に誤差が生じたり、また誤報を受信する場合がありますので、予めご了承ください。

※接続にあたって必要となりますネットワーク環境、及びネットワーク機器類（ルーター / スイッチ / HUB 等）はお客様にてご用意ください。

目次

目次	2
◆ 第1章 安全上のご注意	
・安全にお使いいただくために	4
・この取扱説明書の表記について	5
◆ 第2章 ご利用になる前に	
・緊急地震速報とは	13
・注意事項	13
・緊急地震速報の発信条件	14
・必要ネットワークについて	14
・震度と揺れ等の状況（概要）	15
・日ごろからの対策	16
・気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明	16
・実際に地震が発生した場合の行動要領	17
・梱包内容の確認	18
◆ 第3章 各部の名称	
・各部の名称（前面）	19
・各部の名称（側面）	20
・各部の名称（背面1）	21
・各部の名称（背面2）	22
・各部の名称（背面3）	23
◆ 第4章 本機器の設置と接続	
・設置する前に	24
・本機器の設置方法	25
・動作確認	26
・本機器の接続方法	27
◆ 第5章 ウェブブラウザ接続及び設定	
・本機器の初期設定	28
・ウェブブラウザログイン	35
・基本設定	36
・ネットワーク設定	37
・告知サウンド設定	38
・入出力設定（DO、DI）	41
・津波設定	45
・その他（時報、スリープ設定）	47
・地震受信履歴	48
・津波受信履歴	50
・端末管理	51

目次

◆ 第6章 画面の表示	
・画面の移動方法	52
・「基本画面」表示内容	53
・「地震予報」表示内容①	54
・「地震予報」表示内容②	55
・「大津波警報・津波警報・津波注意報」表示内容	56
・「地震履歴」表示内容	57
・「設定情報」表示内容①	58
・「設定情報」表示内容②	59
・その他の表示内容	60
・本体メインメニュー表示	61
・サブメニュー表示	62
◆ 第7章 本機器の操作	
・「地震履歴」＆「設定情報」の参照操作の画面遷移図	68
・「設定」画面でのボタン操作	69
・「報知テスト」の操作	70
・「報知震度」の設定	71
・「訓練報」の設定	72
・「キャンセル報」の設定	73
・「通過地震」の設定	74
・「深発地震」の設定	75
・オプションサウンドユニットへの送信設定（「RF」の設定）	76
・固定IP設定（DHCP OFF）	77
・外部接続端子について	78
・定期点検	79
◆ 第8章 困ったときは	
・トラブルシューティング	80
◆ 第9章 オプションサウンドユニット	82
◆ 仕様	86
◆ ご注意	87

■ 安全にお使いいただくために

本取扱説明書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本取扱説明書を熟読してください。特に「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、本取扱説明書は本製品を使用中いつでも、ご覧になれるよう大切に保管してください。

◆ 保証書について

1. 保証書は、必ず必要事項を記入し内容をお読みください。その後、大切に保管してください。
2. 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
3. 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無償で修理または交換いたします。
4. 保証期間内であっても、保証書の提示がない場合や天災あるいは無理な使用による故障の場合などには修理交換いたしかねますこと、ご了承ください。（詳しくは、別途付属保証書の保証規定をご覧ください。）

◆ 本製品の用途について

本製品は、一般事務用、家庭用などの一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する、重要な危険性を伴う用途を言います。

- 原子力施設における核反応制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療本機器など。

◆ 注意

1. 本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品をラジオやテレビ受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。
2. 本製品は、取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。
3. 本製品には有寿命部品が含まれています。
4. 製品に使用しているアルミ電解コンデンサーは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
5. 部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。（消耗品は、お客様ご自身で新品を購入し、交換していただきます）
6. 本製品の使用環境は、温度0～40℃(動作時)/-10～60℃(非動作時)・湿度10～80%RH（ただし、結露しないこと）です。
7. 本製品は、日本国内での使用を前提に製造されています。海外では使用できません。
8. 本製品の構成部品（プリント基板、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含まれています。
9. 本製品の電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

■ この取扱説明書の表記について

◆ 電源プラグとコンセント形状の表記について

本製品に添付されているACアダプターの電源プラグは「平行2極プラグ」です。

本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行2極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

◆ 安全にお使いいただくための絵記号について

本取扱説明書では、いろいろな絵記号を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、ご利用のお客様自身や他の人々に加えられる恐れのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを表しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを表わしています。

また、危害の内容がどのようなものかを表わすために、前ページの絵記号と同時に次の記号を使っています。



⚠で表した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。その横には、具体的な警告内容が示されています。



⊘で表した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。



❗で表した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。その横には、具体的な禁止内容が示されています。

◆ 異常や故障のとき



警告

本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなったことを確認して、お問合せ窓口にご連絡ください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、異常な現象がなくなったことを確認して、ご連絡ください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



ACアダプターの本体やケーブル、電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

◆ 設置されるとき



警告



使用できる電源は交流 100V です。

それ以外の電圧では使用しないでください。

電圧の大きさにより内部が過熱したり、劣化して感電・火災の原因になります。



同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。

コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの本機器にも影響を及ぼします。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届くところに置かないでください。口に入れたり、頭にかぶったりすると窒息の原因となります。



外部制御本機器と接続される時は、本取扱説明書および外部制御本機器の取扱説明書をよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。

また、本体および外部制御本機器が故障する原因となります。

注意



振動している場所や傾いた場所などの不安定な場所に置かないでください。
本製品が落下して、けがの原因となります。

本製品を移動する場合は、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。

ACアダプターの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

警告



濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



ACアダプターの電源プラグにドライバーなどの金属を近づけないでください。
感電・火災の原因となります。



ACアダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。
感電・火災もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- 絶対に分解しないでください。
- 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所で使用しないでください。
- 水に濡らしたり、濡れた手で触れないでください。
- 布団の上や中など熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしないでください。
- 上に物を置かないでください。
- 必ず付属のコードセット（電源コード）を使ってください。
- 他の本機器に使用しないでください。



マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、本機器の近くで使わないでください。
本機器の中に入って引火すると火災の原因となります。



浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機、水を使用する場所のそば、湿気の多い地下室、水泳プールのそばやほこりの多い場所では使用しないでください。
電気絶縁の低下によって感電・火災の原因となります。
本体内部にほこりがたまることによって、精密部品の冷却を妨げ、故障ややけどの原因となります。



本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。
水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。



コネクタなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



取り外したキャップなどの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れないでください。
感電・火災の原因となります。
雷が鳴り出しそうときは、ACアダプターやケーブル類を取り外し、雷が鳴り止むまで取り付けしないでください。



添付もしくは指定された物以外のACアダプターの電源コードを本製品に使ったり、添付のACアダプターや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。
感電・火災の原因となります。



ACアダプター本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。
電源コードの芯線が露出したり脱線したりして、感電・火災の原因となります。



本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。
感電・火災の原因になります。修理や点検などが必要な場合は、ご購入された販売元にご連絡ください。



ACアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

 注意


本製品の上に重いものを置かないでください。
故障・けがの原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



本製品を直射日光が当たる場所、ストーブのような暖房器具のそばで使用したり、置いたりしないでください。
感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。



使用中の本体や A C アダプターを布などで覆ったり、包んだりしないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

◆ ご使用になるとき

 警告


A C アダプターや電源プラグはコンセントから時々抜いて、コンセントの接続部分および A C アダプターと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると、感電・火災の原因になります。
電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・ 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認してから差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- ・ グラグラしないコンセントを使ってください。



本製品の各種端子には弊社または販売元が指定したケーブル、コネクタ以外の物を差し込んだり、挿入しないでください。
故障、感電・火災の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、感電・火災の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



液晶ディスプレイ部の破損

液晶ディスプレイ部はガラスでできています。液晶ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがををするおそれがあります。



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、本来の目的以外に使用しないでください。
壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブルについて

- ・ ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。
- ・ 足を引っかけると、けがや接続本機器の故障の原因となります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ・ ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないください。ケーブル被覆が破れ、接続本機器などの故障の原因となります。



電波障害について

- ほかのエレクトロニクス本機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響をおよぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合は、次のようにしてください。
- ・ テレビやラジオなどからできるだけ離す。
 - ・ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
 - ・ コンセントを別にする。



心臓ペースメーカーを装着時の使用

心臓ペースメーカーの装着部分から 22cm 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

◆ その他



警告



本製品の廃棄については、一般廃棄物の扱いとなります。
各地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。
本製品は「廃棄物の処理および清掃に関する法律」の規則を受けます。
一般のゴミと一緒に火中に投げると破裂のおそれがあります。

■ 緊急地震速報とは

1. 地震の揺れの仕組み
地震が発生すると P 波（初期微動）および S 波（主要動）と呼ばれる 2 つの波が地中を伝播します。この波の伝播速度は P 波のほうが S 波より速いため、初めに P 波が伝わり、それから「主要動」と呼ばれる大きな揺れをもたらす S 波が伝わってきます。
2. 「緊急地震速報（予報）」システム
日本全国にある約 1,000 か所の地震計を利用し、地震発生時には震源に近い観測点（地震計）でこの P 波をとらえます。そのデータから直ちに震源（緯度・経度）、地震の規模（マグニチュード）を推定し、これを情報として迅速に利用者に提供するシステムを「緊急地震速報」と言います。
3. 緊急地震速報（予報）報知
本製品はこの情報を受信し、設置している地点の各種情報（経度・緯度、地盤増幅度※1）をもとに実際に起こる地震の大きさ（震度）と到達までの時間（猶予時間）を予測演算し予報を行います。

※ 1…地盤増幅度とは表層盤の構造（硬さ）をもとに揺れの伝わる割合を表すものです。

■ 注意事項

緊急地震速報（予報）の原理的限界等のため、情報のご利用に当っては、次のようなおそれがありますので、事前の十分なご理解が不可欠です。予めご了承下さい。

1. 震度、到達猶予時間などの予測演算数値には誤差があります。
2. 緊急地震速報の報知から大きな揺れが到達するまでの時間は、長くても十数秒から数十秒と極めて短い時間です。
3. 震源に近いところでは地震到達までに緊急地震速報が間に合わないことがあります。（直下型）
4. ごく短い時間のデータだけを使った情報であることから、予測結果に誤差を伴う場合があります。（報知しない場合があります。）
5. 震源の深さが 150km 以上深い場合（深発地震）は予測結果に大きな誤差を含む場合があります。（報知しない場合があります。）
6. 短い間隔で複数の地震が発生した場合、震源の特定が困難となり予測結果に大きな誤差を含んだり予測できない事があります。（複数地震の同時発生、報知しない場合があります。）
7. 落雷、事故、本機器の故障等により、誤報を発生する可能性があります。
8. 気象庁が実施する訓練報に関してはお客様自身が訓練の内容および配信日時等を確認の上対応してください。
9. 緊急地震速報は、サービス品質および、正確性（地震発生時に必ず情報が伝達および、報知されること、情報の伝達が地震の到達の前に必ず間に合うこと、誤報、誤差が生じないことを含む）について一切保証されません。
10. 緊急地震速報について十分理解し、日頃から、地震を想定した行動マニュアルの整備や、定期的な避難・防災訓練の実施に努めてください。

■ 緊急地震速報の発信条件

1. 気象庁の多機能型地震計設置のいずれかの観測点において、P波またはS波の振幅が100ガル以上となった場合。(※1)
2. 解析の結果、震源・マグニチュード・各地の予測震度が求まり、そのマグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合。なお、この基準は変更する場合があります。

※1…1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒～10数秒程度でキャンセル報(予報の取消し)を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度がかかることがあります。

■ 必要ネットワークについて

接続にあたって必要となるネットワーク環境、およびネットワーク機器類(ルーター/スイッチ/HUB等)はお客様にてご用意ください。

1. インターネット常時接続回線が必要です。
(ADSL、FTTH、CATVなど、ダイヤルアップ以外)
2. ご使用のLAN環境でのIPアドレスの取得が自動になっていること。
(DHCP有効設定)
3. ご使用のプロバイダーにてTCP「80」「9001」ポートが開放されていること。
(上記のポート番号は緊急地震速報配信サーバー/アップデートサーバーとの通信に利用されます。)
4. その他、ファイヤーウォールなどの設定をしていないこと。



本製品は、お客様の地震による被害を極力少なくするためのものであり、お客様の財産や命を守るためのものではありません。実際に地震が発生した時のために、避難経路などを確認し、日頃から地震対策を十分に行ってください。



緊急地震速報の受信は、お客様自身の自己責任でなされるものであり、弊社および販売元は、使用によって発生したいかなる損害(速報内容の誤報により生じた損害を含み、直接損害・間接損害の別を問わない)やその修理費等に関して、一切の責任を負いません。

■ 震度と揺れ等の状況(概要)

震度0	人は揺れを感じない。
震度1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
震度2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
震度3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
震度4	・ 殆どの人が驚く。 ・ 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ・ 座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度5弱	・ 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ・ 棚にある食器類や本が落ちる事がある。 ・ 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度5強	・ 物につかまらなると歩くことが難しい。 ・ 棚にある食器類や本が落ちる事が多くなる。 ・ 固定していない家具が倒れることがある。 ・ 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度6弱	・ 立っていることが困難になる。 ・ 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ・ 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ・ 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある、倒れるものもある。
震度6強	・ はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ・ 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ・ 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ・ 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度7	・ 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ・ 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ・ 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

日ごろからの対策

地震は、いつどのような規模で起こるかわかりません。せっかくの緊急地震速報も、事前の準備ができていなければ利用価値が半減してしまいますので以下を参考に、お客様自身で事前の準備を十分に行ってください。

1. 家具が倒れたり、上にあるものが落ちたりすると、けがをするばかりでなく、避難時の障害にもなります。市販の固定器具などを利用し、家具の固定・転倒防止をしておきましょう。また、棚の上のものは容易に落下しないようにしておきましょう。
2. 寝室など常時いるような場所は、倒れやすいものを置かず、避難経路を確認しておき、非常時はすぐに避難できるようにしておきましょう。また、近くに靴やスリッパを常備しておきましょう。
3. 非常時の用意
消火器・ハンマー等、避難経路の確保に必要なものは、すぐに取り出せる所にひとまとめにしておきましょう。
4. 非常時の持ち出し品の用意
食料品関係・貴重品・衣類・靴・防災用品・照明器具・医療用品・携帯電話・簡易充電器なども、すぐに持ち出せるようにまとめておきましょう。
5. 家族で話し合いをして、非常時の避難経路や非難場所を決めておきましょう。

気象庁ホームページより津波警報の発表と解除についての説明

<迅速に発表する津波警報・注意報とその限界について>

気象庁の津波警報・注意報は、地震発生後数分程度で得られる地震の発生位置とマグニチュードから津波を予測して発表します。いっぽう、同じ震源、同じマグニチュードであっても、断層の傾きや断層運動の方向などにより、津波の規模が大きく変わりますが、断層に関する詳細は、10分間程度以上の地震波を分析して初めて分かるものなのです。そのため、気象庁では、津波を発生させやすい傾斜角 45° の逆断層を想定した津波の数値シミュレーションを多数行い、その結果をデータベース化しておき、震源位置とマグニチュードからデータベースを検索して、津波警報・注意報を発表することとしています。

<逐次得られる観測データによる津波警報・注意報の切り替えについて>

気象庁では、津波警報・注意報を発表した後も分析を続け、断層についての詳細が分かった時点で津波を予測し直します。その結果、最初の警報・注意報よりも津波が小さい、あるいは発生しない可能性が高いことが確認できれば、警報・注意報の切り替えや解除を行います（地震のメカニズムを活用した、津波警報・注意報の切替・解除）。また、実際に津波が観測された場合など、逐次得られる観測データに基づいて、津波警報・注意報の更新を行います。

実際に地震が発生した場合の行動要領

◆ 緊急地震速報の受信時、および地震発生時

まずは身の安全の確保	周りの人に地震が来ることを知らせながら、倒れやすい家具などから離れ、丈夫なテーブル・机の下に隠れてください。
火元の始末 (そばに居る場合)	ガスコンロなどの火を止める。また、電熱ヒーターなどの熱源となる本機器の電源も切ってください。火元（暖房・調理器具など）から離れている場合は、無理に近づくとかえって危険が従う（熱くなった油やお湯などをかぶって火傷をする）ので、揺れが収まってから消すようにしましょう。

◆ 地震発生後（揺れが収まったら）

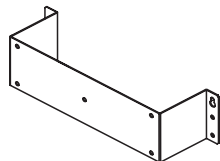
避難経路の確保	避難の開始	・ ガスの元栓を閉め、ブレーカーも切ってください。 ・ 家に避難先や安否情報をメモしたものを残していくようにしてください。 ・ 避難は、必ず徒歩で行い、車などの使用を避けてください。 ・ 割れたガラスなどに注意してください。また、漏電・ガス漏れにも注意してください。
	火の始末	火が出ているのであれば、すぐに初期消火してください。一人で手に負えないようであれば、すぐに近所に協力を求めるようにしてください。

◆ 正しい情報収集と余震・津波への対応

正しい情報収集	デマ情報に惑わされず、テレビ・ラジオ等で正しい情報を得て、的確に行動するようにしてください。
余震に注意	比較的大きな地震が発生すると、その近くで再び地震が発生します。この地震のことを「余震」と言います。大きな地震が収まったからといって、倒れやすいもののそばに近寄りたりしないでください。
津波に注意	震源が海底・海岸沿いの場合、津波が発生する可能性があります。海岸に近い場所にいる場合は、揺れが収まった後にできるだけ高い場所（高台や鉄筋の建物の4階以上のフロアなど）に避難して下さい。テレビやラジオの情報に注視して的確に行動して下さい。予想を超える大きな津波が来る場合があります。

■ 梱包内容の確認

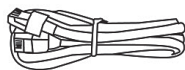
以下に梱包品の一覧を表示します。開封時に内容を確認してください。



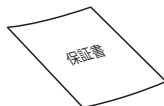
- 本体 x 1 個
- 壁掛け用ブラケット x 1 個
- 滑り止めゴム x 4 個



- ブラケット固定用ねじ x 5
- 壁掛け用ねじ x 4 本
- バーコードラベル x 4 枚

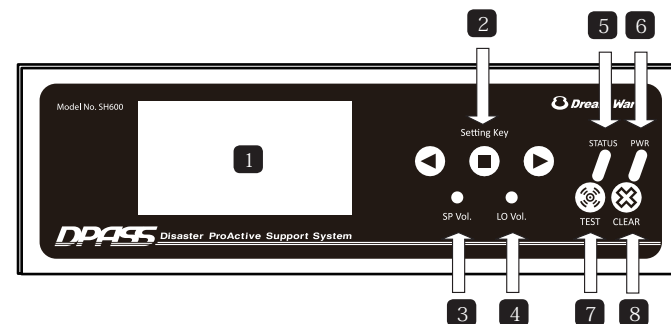


- ACアダプター x 1 個
- LANケーブル 2 m x 1 本
- コード固定具(樹脂製) x 3



- セットアップガイド x 1 枚
- 保証書 x 1 枚

■ 各部の名称(前面)



1 LCD ディスプレイ

各種の情報を表示します。
(時計、地震情報、設定情報、通信状態、動作状況など)

2 操作ボタン

表示内容の切替と各種設定を変更します。

3 スピーカー音量調節 (SP Vol.)

内臓スピーカーの音量を調節します。

4 ラインアウト音量調節 (LO Vol.)

LINE-OUT 音量を調節します。(外部への音量調節放送設備など)

5 動作表示ランプ (STATUS ランプ：緑)

緊急地震速報配信サーバーとの接続状況 (通信状況) 表示します。(ネットワーク異常時点滅)

6 電源ランプ (PWR ランプ：赤)

電源 ON 時は点灯、内部シリアル通信異常時に点滅します。

7 TEST ボタン

本体の動作確認用ボタンです。(ボタンで報知動作確認ができます。)

8 CLEAR ボタン

地震報知動作以外、全ての動作 (接点含む) をクリアします。

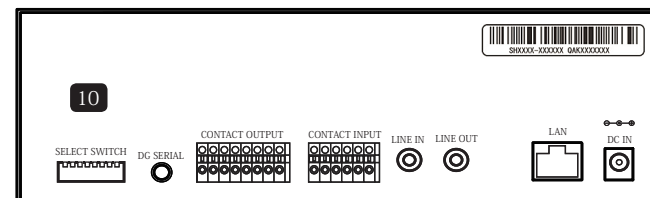
■ 各部の名称 (側面)



9 内臓スピーカー

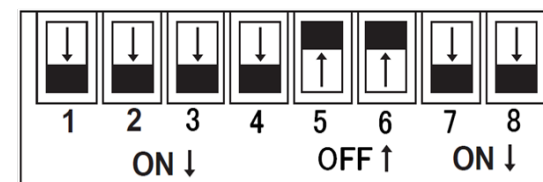
報知音を出します。(2つのスピーカーが内臓されています。)

■ 各部の名称 (背面 1)

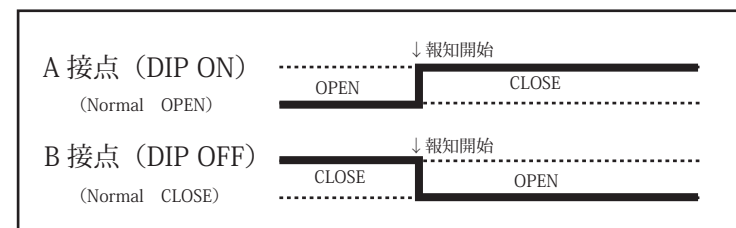


10 DIP スイッチ

接点出力方式設定、端末設定初期化、工場初期化、

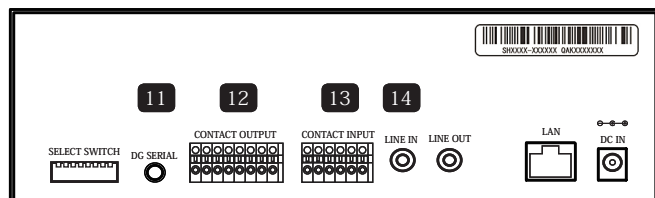


- ① 接点出力方式設定 (DO 別リバース設定)
DIP スイッチ 1 番を OFF にしますと DO1 の接点出力は A 接点方式から B 接点方式に切り替わります。(「2 番は DO2」、「3 番は DO3」、「4 番は DO4」同様)



- ② 通常モード (5 番 OFF、6 番 OFF) : 本体の通常モードとして動作します。
※ 5 番、6 番の設定変更は行わないでください。正常動作しなくなります
- ③ 本体初期化
7 番上げ下げ (ON ⇒ OFF ⇒ ON) : 工場出荷初期値に戻ります。
※ 全ての受信履歴も削除され、再起動されます。
- ④ ネットワーク初期化
8 番上げ下げ (ON ⇒ OFF ⇒ ON) : ネットワーク設定値を初期化します。
※ DHCP に設定され、再起動されます。

■ 各部の名称 (背面 2)



11 診断用コネクタ (DG SERIAL)

端末診断のための端子（お客様ではご利用できません）

※ 診断用コネクタにイヤフォン等を挿入しないでください。故障の原因となることがあります。

12 外部接点出力端子 (CONTACT OUTPUT)

外部連動制御する本機器を接続

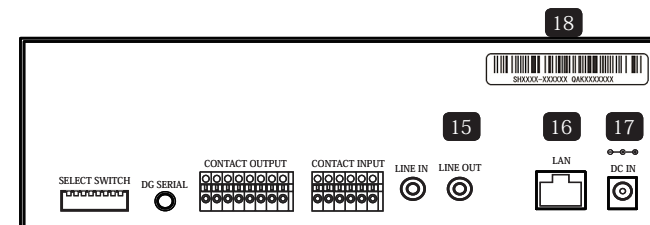
13 外部接点入力端子 (CONTACT INPUT)

外部本機器から本機器を制御する際に接続

14 LINE IN コネクタ (音声スルー機能)

外部本機器から音声入力ができます。
入力された音声は LINE OUT から出力されます。

■ 各部の名称 (背面 3)



15 LINE OUT コネクタ

内部スピーカーと同様の音声を出力 / 外部入力音声を出力

16 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続

17 電源コネクタ

付属の AC アダプターの接続

18 バーコードラベル

製造ロット及び固有の識別 ID 表示

■ 設置する前に

本機器はお客様の購入した本機器の ID と住所などの情報がサーバーに登録されないと正常に動作（地震予報を報知）しませんので、必ず端末登録を行ってください。

◆ 端末登録方法

端末登録方法（登録用紙など）に関しては、ご購入された販売店にお問い合わせください。

- ※ 登録の際必要となる通信費用につきましてはお客様のご負担となります。
- ※ バーコードを貼付した保証書と登録用紙は大切に保管してください。
- ※ サーバーへの端末登録が完了いたしますと、情報受信ができるようになります。登録完了の通知はいたしかねます。

■ 本機器の設置方法

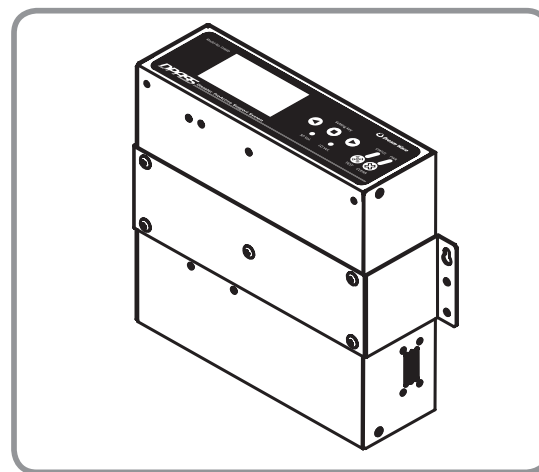
◆ 接 続

1. すではお客様が用意されたルーターまたはハブと本体を、LANケーブルで接続してください。
※ 必ずLANケーブルを接続してから電源を接続するようにしてください。
2. 付属のACアダプターを接続してください。
3. 電源を入れて3分以内に基本画面が表示されない場合、お客様のネットワーク環境をご確認の上、ご購入された販売店のお問い合わせ窓口にご連絡ください。

◆ 設 置

付属の滑り止めゴム足、もしくは壁掛けブラケットを使い設置してください。

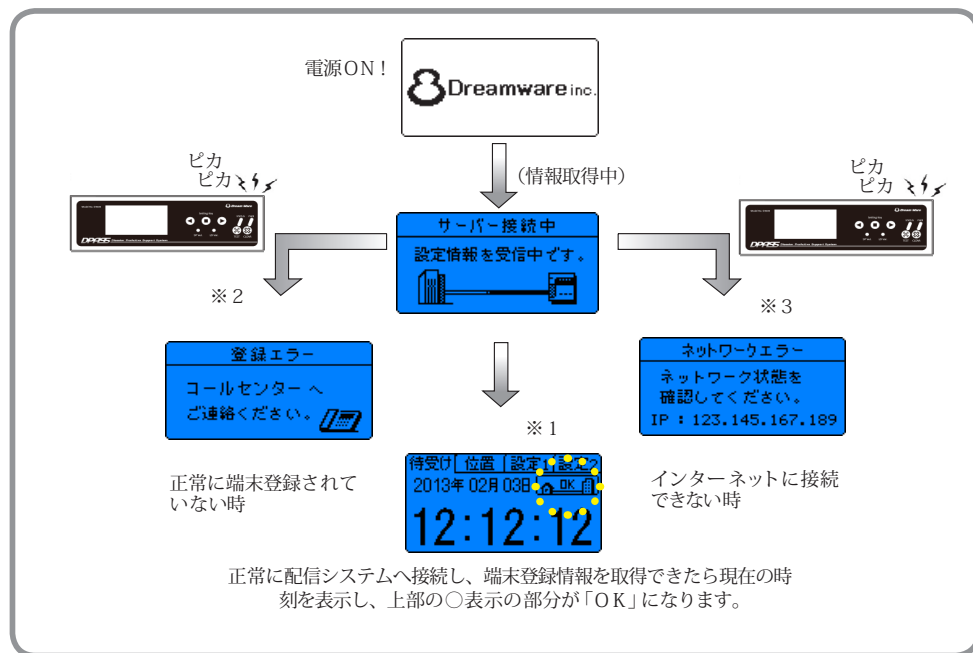
- ゴム足を利用
 1. 本体の下部に滑り止め用のゴム足を4ヶ所に付けます。
 2. 設置する場所へ置きます。
- 壁掛けブラケットを利用
 1. 本体にブラケットを付属のブラケット固定用ねじで固定します。
 2. 任意の場所に、付属品の壁掛け用ねじで固定します。
- 誘導雷対策として、本体に接続するすべてのケーブル等のアースターや雷防止タップ等の雷サージ対策を行ってください。



壁掛け用ブラケットの固定画面

■ 動作確認

- 端末登録の手続きが完了しましたら、前ページの設置方法に従ってLANケーブルを接続したのち、ACアダプターをコンセントに接続してください。
- 電源投入後、次のような画面の流れを確認してください。

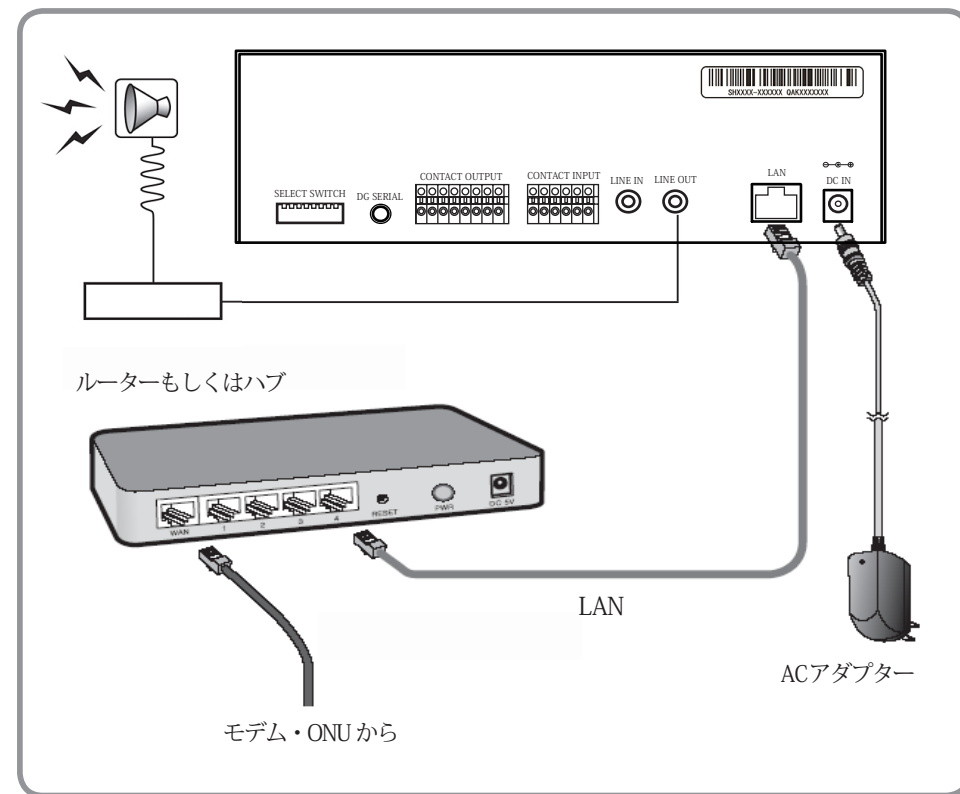


電源が入ると、動作表示ランプ（STATUS）点滅、約3分秒以内に現在時刻が表示され、（※1）の表示の部分が「OK」となると動作表示ランプも点灯になります。ここまで正常に立ち上がると本機器は問題なく動作していますので、本書の説明に従ってお客様の好みの設定に合わせてお使いください。

※2…まだお客様の端末登録手続きが完了していません。端末登録を行ってください。すでに登録手続きを済ませた方の場合には登録作業中ですので、あと2～3日お待ちください。表示内容が上記と違う場合は、大変申し訳ございませんが、ご購入された販売元へお問い合わせください。

※3…お客様のネットワーク環境のチェックが必要となります。（ルーターやLANケーブル等のネットワーク本機器の接続状態及び設定内容をご確認ください。）

■ 本機器の接続方法



※ 外部入力・出力を利用し別の本機器と連携する際にはご購入された販売元にお問い合わせください。

お客様が直接取り付けになった場合は、それに従う機器の破損、故障などについて、弊社及び販売元は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 本機器の初期設定

※本機器の工場出荷時の IP 設定は自動取得 (DHCP) になっておりますので、DHCP 環境でのご利用の場合は IP アドレスにつきまして何も設定する必要はありません。

◆ DHCP 環境で利用する場合

本機器の工場出荷時の設定は DHCP になっています。LAN ケーブルを接続し、AC アダプターを接続すると端末は自動的に IP を取得します。IP の自動取得完了後には基本画面 (時計画面) が表示されます。(P.26、P.53 画面参照)

※基本画面が表示されるとウェブブラウザからの全ての設定が可能になります。

(P.35 ウェブブラウザログイン参照)

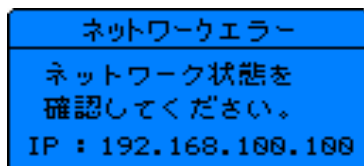
◆ 固定 IP で利用する場合 (DHCP を利用しない場合)

本機器のウェブブラウザからネットワーク設定が必要になります。

ネットワーク環境が固定 IP の場合、初期状態から IP 自動取得ができないため、ネットワーク通信が行われない状態となり、基本画面は表示されません。IP アドレスを直接入力し、変更を行ってください。

1. 固定 IP で利用する場合、ネットワーク通信ができない状態となるため、自動取得失敗の後初期値の次の IP アドレス「192.168.100.100」が適用されます。(下の画面参照)

※適用されるまで最大 1 分程度かかる場合があります。



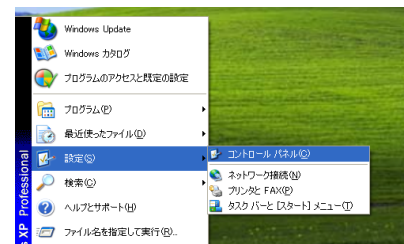
2. 本機器のウェブブラウザから固定 IP を設定するためには、先にパソコンの IP 変更が必要になります。パソコンの設定については下記のように変更をしてください。

※パソコンに設定する IP は 192.168.100.XXX になります。下記は任意に 101 にしました。

同じ LAN 内であれば変更しなくても、本機器のウェブブラウザへ接続できます。

OS 種別変更方法

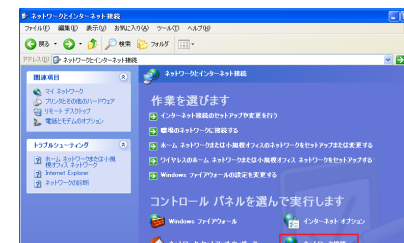
Windows XP: ①「スタート」⇒②「コントロールパネル」⇒③「ネットワークとインターネット接続」⇒④「ネットワーク接続」⇒⑤「ローカルエリア接続」⇒⑥「ローカルエリア状態」⇒⑦プロパティ⇒⑧「インターネットプロトコル TCP」プロパティ⇒⑨ IP 入力⇒⑩設定確認



①「スタート」⇒②「コントロールパネル」



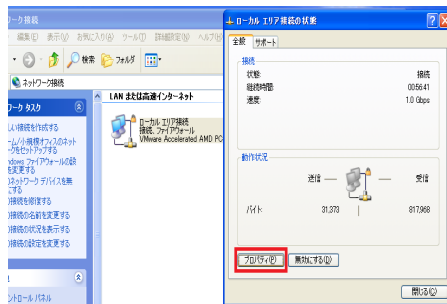
③「ネットワークとインターネット接続」



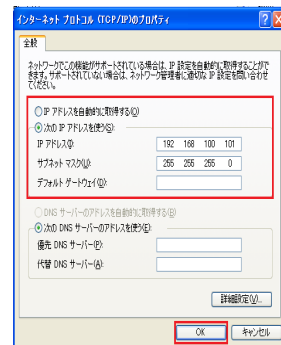
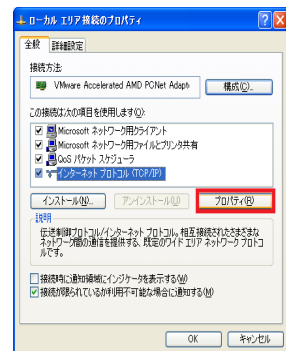
④「ネットワーク接続」

ウェブブラウザ接続及び設定

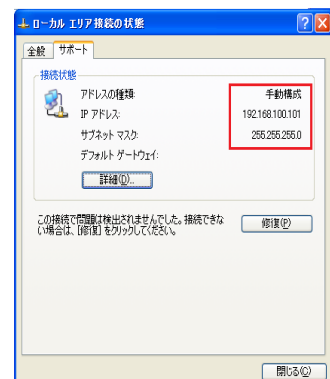
ウェブブラウザ接続及び設定



- ⑤ 「ローカルエリア接続」ダブルクリック
⇒⑥ 「プロパティ」



- ⑦ 「インターネットプロトコル TCP」 「プロパティ」 選択
⇒⑧ IP 入力 (DNS は設定しなくても接続できます。)

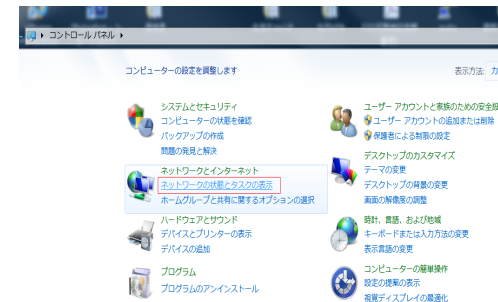


- ⑨ ⑥のプロパティ画面からサポートを押すと設定確認ができます。

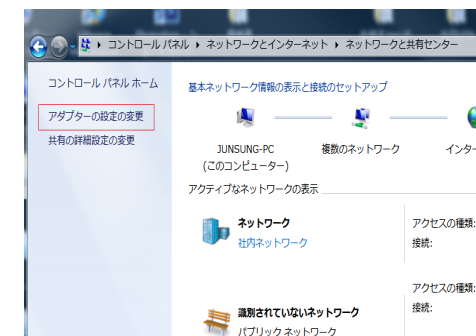
OS 種別変更方法

Windows vista / Windows 7 :

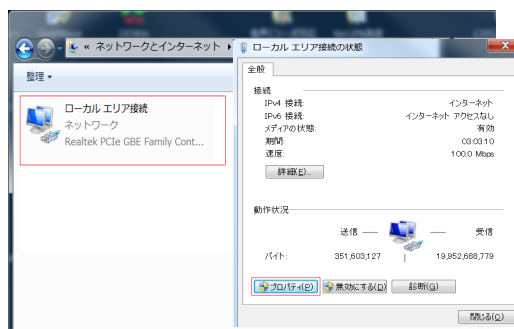
- ① 「スタート」 ⇒ ② 「コントロールパネル」 ⇒ ③ 「ネットワークの状態とタスクの表示」
⇒ ④ 「アダプターの設定の変更」 ⇒ ⑤ 「ローカルエリア接続」 ⇒ ⑥ 「プロパティ」
⇒ ⑦ 「インターネットプロトコルバージョン TCP IPv4」 の 「プロパティ」 ⇒
⑧ IP 入力して 「OK」 ⇒ ⑨ IP 設定確認



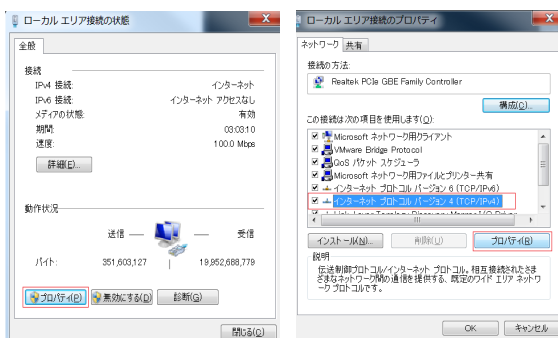
- ① 「スタート」 ⇒ ② 「コントロールパネル」
⇒ ③ 「ネットワークの状態とタスクの表示」



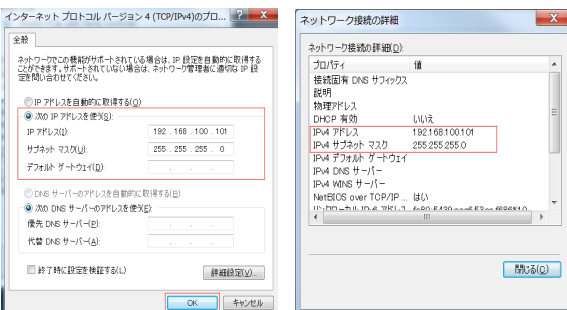
- ④ 「アダプターの設定の変更」



⑤「ローカルエリア接続」ダブルクリック
⇒⑥「プロパティ」



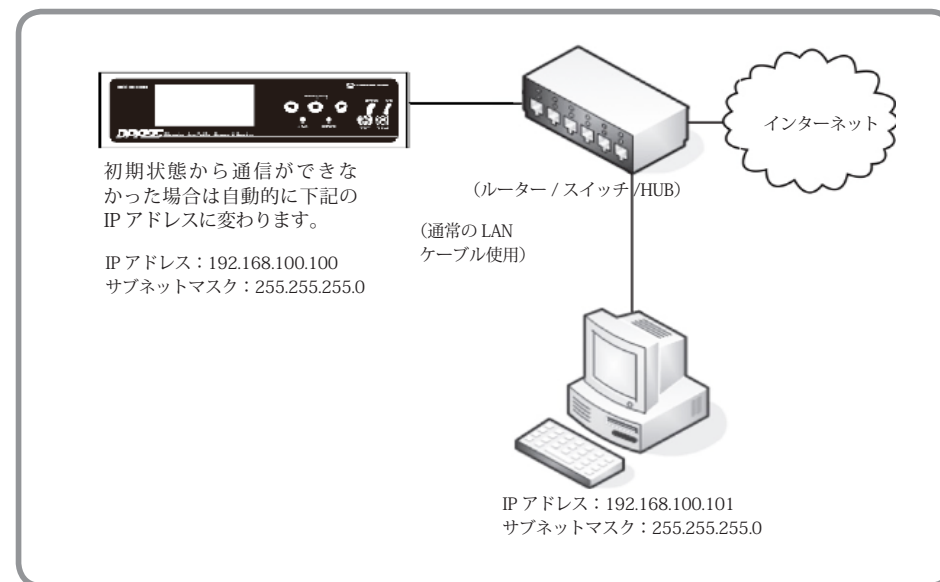
⑥「プロパティ」
⇒⑦「インターネットプロトコルバージョン TCP IPv4」の「プロパティ」



⑧ IP 入力して「OK」(DNS は設定しなくても接続できます)
⇒⑨ ⑤の画面から詳細を押すと IP 確認ができます IP 設定確認

3. 本機器のウェブブラウザへのアクセス方法

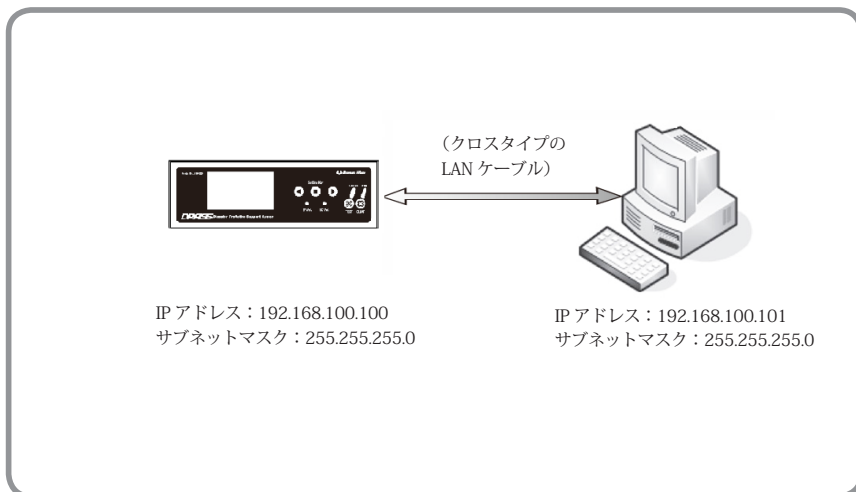
① 固定 IP 変更設定方法 1 (LAN 環境での端末固定 IP 設定)



本機器とパソコンを同じネットワーク機器（ルーター / スイッチ / HUB 等）に差込、上の画面のようにしてください。

上記のように準備が完了した後は本機器のウェブブラウザにアクセスすることができます。パソコンのウェブブラウザを立ち上げ、アドレスバーのところに URL(http://192.168.100.100) を入力し移動すればログイン画面が表示されます。設定ページにログインしていただきお客様のネットワーク環境に合わせ IP 設定を変更してください。(P.37 参照 固定 IP 設定参照)

② 固定 IP 変更設定方法 2 (クロス LAN ケーブル)



クロスタイプの LAN ケーブルを利用しての設定が可能です。(クロスタイプの LAN ケーブルは別途ご用意する必要があります。)

パソコンの IP 設定変更の上、本機器とパソコンをクロスタイプの LAN ケーブルで接続し、パソコンのウェブブラウザを立ち上げ、アドレスバーに URL(<http://192.168.100.100>) を入力し移動すればログイン画面が表示されます。設定ページにログインしていただきお客様のネットワークに合わせ IP 設定を変更してください。(P.37 固定 IP 設定参照)

■ ウェブブラウザログイン

1. ウェブブラウザログイン (最初のログイン)

- ① ブラウザを立ち上げ、アドレスバーに本機器に設定されている IP アドレスを入力します。
例) 192.168.xxx.xxx (IP アドレスは本機器の LCD 画面から確認することができます。)
- ② ログイン画面が表示されたら、ログインパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。
※工場出荷時のログインパスワード 「admin」(変更可能)



2. ウェブブラウザログイン (ご利用中のログイン)

- ① 本機器に基本画面(時計画面)が表示されていることを確認します。
- ② 進む(▶)ボタンを6回押し本機器のネットワーク情報を表示させます。
- ③ 表示中、上から二行目の「IP v 4」のアドレスをメモします。
- ④ ブラウザを立ち上げ、アドレスバーに本機器に設定されている IP アドレスを入力します。
例) 192.168.xxx.xxx (③で確認した IP アドレスを入力してください。)
- ⑤ ログイン画面が表示されたら、ログインパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

※本機器のネットワークアドレスまたはウェブブラウザログインパスワードの変更の際には必ず取扱説明書または、保証書などにメモをしてください。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

基本設定

報知震度及び各種緊急地震速報の受信条件設定ができます。また端末識別 ID 情報、位置情報の確認ができます。

基本設定

ネットワーク設定

告知サウンド設定

入出力設定

津波設定

その他

地震受信履歴

津波受信履歴

端末管理

● 端末基本設定

端末 ID ①	QAK4400000	バージョン情報 ②	1.00
緯度 ③	35.000000	経度	139.000000
増幅度	2.000000	配信サーバー	123.145.167.189
設定震度 ④	震度 1		
訓練報設定 ⑤	☐ 受信する ☒ 受信しない	キャンセル報設定	☐ 受信する ☒ 受信しない
通過地震設定	☐ 受信する ☒ 受信しない	深発地震設定	☐ 受信する ☒ 受信しない
RF出力設定 ⑥	☐ 出力する ☒ 出力しない		

保存

- ① 端末 ID : 端末識別 ID (QAK から始まる 10 桁の英数字) です。
- ② バージョン : 端末のバージョン情報を表示します。
- ③ 位置情報 : 端末の設置場所情報 (緯度・経度・増幅度) が確認できます。
- ④ 設定震度 : 報知震度の設定ができます。
設定震度以上の地震のみ報知動作を行います。
- ⑤ 受信設定 : 訓練報・キャンセル報・通過地震・深発地震
「受信する / 受信しない」設定を行います。
(詳細は P.71 ~ 75 ご参照ください。)
- ⑥ RF 出力設定 : オプションサウンドユニットへ「出力する / 出力しない」
設定を行います。(詳細は P.76 ご参照ください。)

※ 地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

ネットワーク設定

ウェブブラウザにログインし、ネットワーク情報及び PROXY 設定を行うことができます。

基本設定

ネットワーク設定

告知サウンド設定

入出力設定

津波設定

その他

地震受信履歴

津波受信履歴

端末管理

● ネットワーク設定情報 ①

DHCP	☒ ON ☐ OFF		
端末 IP アドレス	192.168.1.101	サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1		
DNS1サーバー	192.168.1.1	DNS2サーバー	192.168.1.1

● PROXYサーバー設定情報 ②

PROXY設定	☐ SOCKS4 ☐ SOCKS5 ☒ 使用しない		
PROXYサーバーアドレス		PROXYポート	
ユーザーID		パスワード	

保存

① ネットワーク設定情報

- DHCP ON
: DHCP ON に設定した場合、ネットワーク環境のルーターから IP アドレスを自動取得します。
- DHCP OFF
: DHCP OFF に設定した場合、固定 IP アドレス情報を入力してください。

② PROXY サーバー設定情報

- ご利用中の PROXY サーバー接続方法を選択してください。
- SOCKS4
: PROXY サーバーのアクセス情報 (認証無し) を入力してください。
 - SOCKS5
: PROXY サーバーのアクセス情報及び認証情報 (ID/PASS) を入力してください。
 - 使用しない
: PROXY サーバーを使用していないネットワーク環境では使用しないを選択してください。

※ 地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。
※ 設定した情報を適用するには端末の再起動が必要になります。
再起動には約 1 分 ~ 2 分程度かかり、その間には緊急地震速報を受信することができませんので、ご注意ください。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

■ 告知サウンド設定

告知サウンドの詳細設定ができます。

基本設定
ネットワーク設定
告知サウンド設定
入出力設定
津波設定
その他
地震受信履歴
津波受信履歴
端末管理

● 告知サウンド設定情報

冒頭告知音設定 ①	無音	音声出力表現設定 ②	詳細 (カウントダウン)
告知繰り返し設定 ③	1 回		
告知アナウンス 1 ④	7. 揺れが収まるまで、身を守ってください。		
告知アナウンス 2	無音		
告知アナウンス 3	無音		

保存

- ① 冒頭告知音設定 : 無音・NHK・REIC から選択ができます。
NHK チャイムは震度 5 弱以上の地震が発生した時のみ報知されるため、震度 1～4 までは弊社独自のチャイムが鳴ります。(P.39 参照)
- ② 音声出力表現設定 : 詳細 (猶予時間 + カウントダウン)・曖昧 1 (10 秒以下でカウントダウン)・曖昧 2 から選択ができます。(P.39 参照)
- ③ 告知繰り返し設定 : 告知アナウンスの繰り返し回数の選択ができます。(1～10 回)
- ④ 告知アナウンス 1,2,3 : 4 3 種類の告知アナウンスから選択ができます。(P.40 参照)
設置場所の状況に合わせてアナウンスを選択してください。

※告知アナウンス 1 は「7. 揺れが収まるまで、身を守ってください。」に初期設定されており
ます。

※選択表現別音声内容 (P.39) と告知アナウンスの音声リスト (P.40) をご参照にお客様に一番
適した音声出力設定行ってください。

例 1) 緊急地震速報震度 4 の猶予時間 1 5 秒
NHK / 詳細 / 告知 3 回 / アナウンス 7、無音、無音

DW チャイム 3 回 地震震度 4 12 秒後 10.9.8.7.6.5.4.3.2.1
揺れが収まるまで、身を守ってください。
揺れが収まるまで、身を守ってください。
揺れが収まるまで、身を守ってください。

例 2) 緊急地震速報震度 5 弱の猶予時間 2 5 秒
NHK / 曖昧 1 / 告知 2 回 / アナウンス 1、無音、無音

NHK チャイム 2 回 地震「物が倒れるぐらいの揺れが」「まもなく来ます。」「ピ・ピ」
地震「物が倒れるぐらいの揺れが」「すぐに来ます。」「ピ・ピ」
地震「物が倒れるぐらいの揺れが」「すぐに来ます。」 10.9.8.7.6.5.4.3.2.1
安全が確認できるまで外には出ないでください。
安全が確認できるまで外には出ないでください。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

● 選択表現別音声内容 (※記号については、下記【略称表示説明】参照)

冒頭音	音声出力表現	開始音声及び繰り返し音声	最終音声
無音	詳細	「地震_震度●_△秒後」	カウントダウン
	曖昧 1	「地震_◆_○」+「★オリジナル報知音」	カウントダウン
	曖昧 2	「地震_○」+「★オリジナル報知音」	「★オリジナル報知音」
REIC	詳細	「地震_震度●_△秒後」	カウントダウン
	曖昧 1	「地震_◆_○」+「★オリジナル報知音」	カウントダウン
	曖昧 2	「地震_○」+「★オリジナル報知音」	「★オリジナル報知音」
NHK	詳細	「地震_震度●_△秒後」	カウントダウン
	曖昧 1	「地震_◆_○」+「★オリジナル報知音」	カウントダウン
	曖昧 2	「地震_○」+「★オリジナル報知音」	「★オリジナル報知音」

【略称表示説明】

●: 気象庁震度階級の「震度 1～7」	△: 猶予時間 (※最大読み上げ音声 50 秒)
◆: 震度階級あいまい表現	○: 猶予時間あいまい表現
・震度 1～3 の場合「小さな揺れが」	・0～1 9 秒の場合「すぐに来ます」
・震度 4～5 強の場合「物が倒れるぐらいの揺れが」	・2 0～2 9 秒の場合「まもなく来ます」
・震度 6 弱～7 の場合「命にかかわるほどのゆれが」	・3 0 秒以上の場合「もうまもなく来ます」
★: 「オリジナル報知音」	REIC: REIC 報知音
・震度 1～3 の場合「ピ」	・震度 / 時間にかかわらず同一
・震度 4～5 強の場合「ピ・ピ」	NHK: NHK 報知音
・震度 6 弱～7 の場合「ピ・ピ・ピ」	・震度 1～4 ドリームチャイム
	・震度 5 弱～7 NHK チャイム

※ 気象庁から訓練報を受信した場合は冒頭に「地震」の代わりに「配信テストです」をウェブブラウザ
及び TEST ボタンの場合は冒頭に「地震」の代わりに「動作確認テストです」を挿入します。

※ チャイムの途中で地震が来てしまった場合 (猶予時間が短い 4 秒、3 秒、2 秒、1 秒) でも最後まで震
度情報を報知し終了します。(猶予時間: 地震起きて設置場所まで到達する時間)

例) 緊急地震速報震度 5 弱の猶予時間 2 秒 (NHK2 回設定) ⇒チャイムの途中地震到達 (揺れている)

詳細 : NHK チャイム 2 回、「地震震度 5 弱」
曖昧 1 : NHK チャイム 2 回、「物が倒れるぐらいの揺れがすぐに来ます。」
曖昧 2 : NHK チャイム 2 回、「地震すぐに来ます。」

●告知アナウンス音声リスト

0. 無音
1. 安全が確認されるまで外には出ないでください。
2. 安全な姿勢で身構えてください。
3. 安全に備えてください。
4. 安全確認のため皆様に、一旦この場所から外へご退場頂きます。
5. 身の安全を確保してください。
6. ゆれが収まるまで安全な場所にお過ごしください。
7. 揺れが収まるまで、身を守ってください。
8. ゆれが収まってから火の始末をしてください。
9. 揺れがくるまで僅かな時間しかありません。
10. 強い揺れに警戒してください。
11. 強い揺れに備えてください。
12. 落ち着いてください。
13. むやみに移動すると危険です。
14. お座りになってお待ち下さい。
15. 机の下に隠れて身を守ってください。
16. テーブルや机の下に隠れてください。
17. 窓やドアを開け避難経路を確保してください。
18. 避難経路を確保してください。
19. 指定の避難場所に避難してください。
20. 火の元の確認をしてください。
21. 倒れやすいものに近づかないでください。
22. 周りを確認してください。
23. ガスの元栓を閉めて下さい。
24. 倒れやすい家具などから離れてください。
25. 落下物に注意してしてください。
26. 上から落ちてくるもの倒れてくるものから身を守ってください。
27. 大変危険です。
28. 海岸沿いから離れてください。
29. 震源が海底・海岸沿いの場合、津波が発生する可能性があります。
30. 皆様の安全に問題はありません。
31. 皆様のご理解、ご協力に感謝いたします。
32. 本日、催しを中止せざるを得ない事態となり、誠に申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。
33. 指示が出るまでそのまま待機してください。
34. 係員の誘導に従ってゆっくりとご退場をお願いいたします。
35. 前の人を押したりしないでください。
36. 地盤が緩んでいる場所では、土砂災害に注意してください。
37. 地滑り、土砂災害に注意してください。
38. がけ崩れに注意してください。
39. テレビやラジオの電源をいれ、災害情報を確認してください。
40. テレビ・ラジオから最新の情報を入手してください。
41. 気象庁のホームページから最新の情報を入手してください。
42. 走らないでください。
43. 余震に十分注意してください。

■ 入出力設定 (DO, DI)

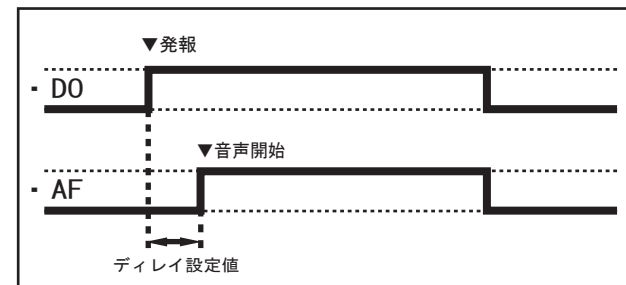
1. 出力設定 (DO)

外部出力の設定ができます。

基本設定	ネットワーク設定	告知サウンド設定	入出力設定	津波設定	その他	地震受信履歴	津波受信履歴	端末管理
● 出力設定情報								
AF	出力ディレイ ①	ディレイ無し						
D01	設定情報 ②	☐ 地震出力 ☐ 津波出力 ☐ DI出力						
	震度レベル ③	使用しない		津波出力 ④	出力無し			
	ディレイ設定 ⑤	ディレイ無し		出力時間 ⑥	☒ 発報時、出力 ☐ 発報後、出力 出力無し			
D02	設定情報	☐ 地震出力 ☐ 津波出力 ☐ DI出力						
	震度レベル	使用しない		津波出力	出力無し			
	ディレイ設定	ディレイ無し		出力時間	☒ 発報時、出力 ☐ 発報後、出力 出力無し			

① AF 出力ディレイ : DO の出力タイミング (発報時) に対して音声出力開始タイミングを遅らせたい場合設定します。(デフォルト: なし)

例) 2 秒選択の場合、地震発生後の 2 秒後から音声出力が開始されます。



② DO 設定情報 : 地震 / 津波 / DI から選択し、接点を出力します。
3 つ選択も可能です。「AF 連動設定」及び「発報後、出力」設定の際には「DI 出力」を選択することができません。

※ DO 出力条件を複数選択した場合、緊急地震速報に関する出力が最優先されます。地震関連発報中に津波を受信した際には緊急地震速報の報知終了後、津波情報が報知されます。

③ 震度レベル : 設定震度レベル以上の地震のみ、接点を出力します。

例) 基本動作設定震度が3、DO1 設定震度が5 弱の場合
震度3以上の地震を受信し、その地震から震度5 弱以上のみ接点を出力します。

④ 津波出力 : 津波出力についての設定（出力なし、出力する、津波解除・取消のみ出力）

※一つの DO から地震と津波を同時に出力させたい場合は②の DO 設定情報を地震出力と津波出力両方選択してください。そのあと津波出力を「出力する」に設定してください。

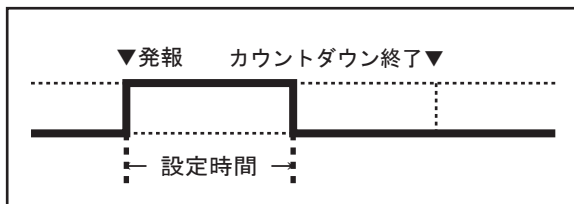
⑤ ディレー設定 : 接点出力タイミングを遅らせることができます。
(100m～900m、1～10秒)

⑥ 出力時間 : DO の動作時間設定（単位：秒）

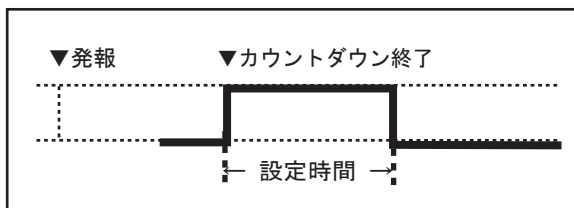
「100m～900m、1～300秒」、「連続」、「AF 連動」の選択ができます。

ア)「100m～900m、1～300秒」設定した時間のみ出力します。

●発報時、出力

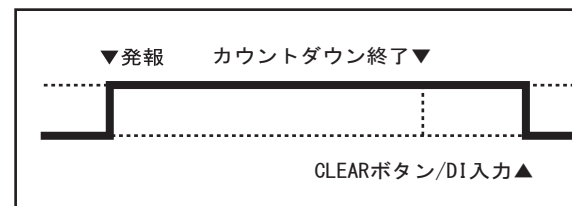


●発報後、出力

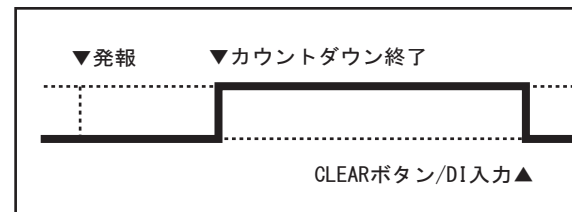


イ)「連続」を選択すると発報と同時に出力動作を開始します。キャンセル報受信、もしくはDIでの入力、CREAR ボタン長押しがない限り出力 ON の状態を維持します。

●発報時、出力

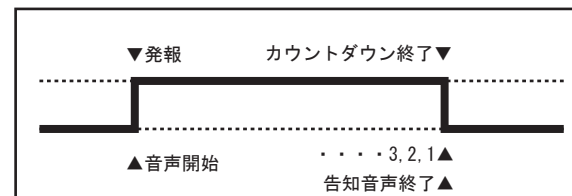


●発報後、出力



ウ)「AF 連動」を選択すると発報と同時に出力動作を開始します。
音声出力（カウントダウン終了時、告知アナウンスを設定している場合は告知音声終了時）が終了すると接点出力も同時に終了します。

●発報時、出力



※「AF 連動」の場合「発報後、出力」設定はできません。

※ 地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。

2. 入力設定 (DI)

入力の設定を行います。

- ① クリア設定 : 外部接点入力端子 (DI1、DI2、DI3) から入力された信号を利用し、出力中の接点をクリアさせます。

- ② DI 連動設定 : 外部接点入力端子 (DI1、DI2、DI3) からトリガー設定 (1 点、2 点、3 点) 以上の接点入力があった場合、指定した接点出力ポート (DO1,2,3,4) から接点を出すことができます。

- ③ 連動動作 DO 選択 : 上記② DI 連動設定により、接点出力ポート (DO) を選択することができます。

※外部に接続している地震計 (P 波計) 又は他の連動本機器からの入力を活用することができます。

※ 地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。

津波設定

1. 津波設定

津波情報受信及び受信地域の設定を行います。

- ① 津波警報・注意報受信設定 : 津波警報・注意報の種類の選択ができます。

津波注意報 : 予想される津波の高さが高いところで 0.2 m 以上、1 m 以下の場合であって、津波による災害の恐れがある場合
 津波警報 : 予想される津波の高さが高いところで 1 m 超え、3 m 以下の場合
 大津波警報 : 予想される津波の高さが高いところで 3 m 超える場合

- 受信しない : 津波情報に対して本機器は報知動作しません。
- 津波注意報以上発報 : 津波注意報・津波警報・大津波警報に対して報知します。
- 津波警報以上発報 : 津波警報・大津波警報に対して報知します。
- 大津波警報のみ発報 : 大津波警報に対してのみ報知します。

- ② 津波警報・注意報受信地域 : 気象庁から決められた津波警報・注意報などの※発表区域です。本機器設置場所に一番近い海岸沿いに設定をしてください。(P.46 参照)

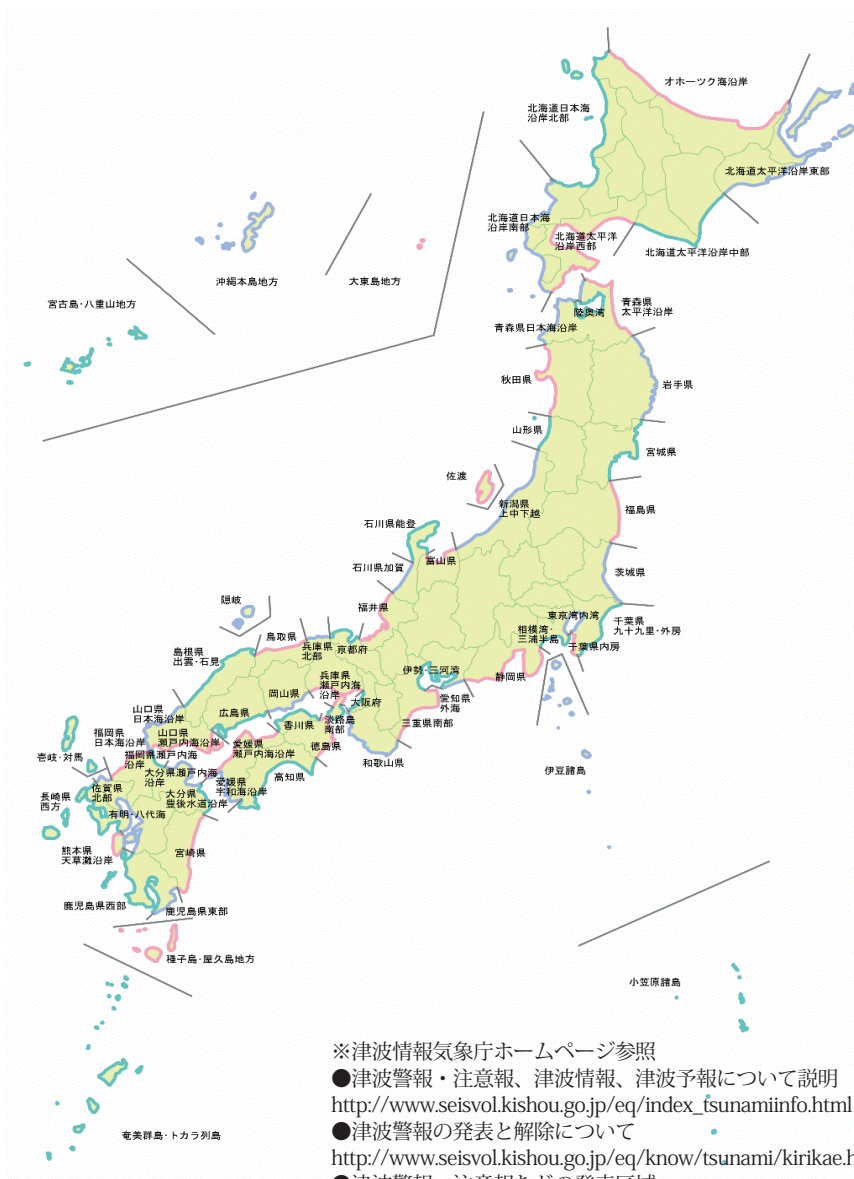
- ③ 津波警報・注意報音声出力 : 音声出力は連続設定に固定されています。津波受信時には津波音声「津波警報・注意報発令」を津波解除・取消が発表されるまで報知を続けます。(P.56 参照)

※ 地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。

2. 津波区域

津波区域表示

画面を参照し、設置場所の津波受信地域を設定してください。



■ その他（時報、スリープ設定）

選択した時刻に時報を鳴らしたり、本機器の報知動作を停止させることができます。

基本設定	ネットワーク設定	告知サウンド設定	入出力設定	津波設定	その他	地震受信履歴	津波受信履歴	端末管理
● 時報・端末起動時間設定								
時報サウンド ①		時報 1	時報出力テスト ②		繰り返し開始 繰り返し終了			
時報設定 ③		時報 2 時報 3 時報 4	1 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23					
スリープ時間設定 ④		☐ 日 ☐ 月 ☐ 火 ☐ 水 ☐ 木 ☐ 金 ☐ 土		00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23				
保存								

① 時報サウンド : 「時報 1」、「時報 2」、「時報 3」、「時報 4」から選択できます。

② 時報出力テスト : 時報音を鳴らして確認をします。

③ 時報設定 : 選択した時刻に時報が鳴ります。(複数選択可)

④ スリープ時間設定 : 選択した曜日、時刻には機器の報知動作が止まります。
緊急地震速報及び津波電文が受信されても報知しません。

曜日を選択した場合、その選択の曜日は 24 時間報知動作しません。
時刻を選択した場合、その選択の時刻には報知動作しません。

例 1) 曜日のみ選択: 週末に本機器の設置場所に誰もいない場合、週末（土曜日、日曜日）を選択すると地震が来ても端末は報知動作しません。

例 2) 時刻のみ選択: 夜 21 時から朝の 8 時まで設置場所に誰もいない、周辺の住民に迷惑になるなど、放送設備から地震の報知をさせたくない場合、時刻を 21 時から朝の 8 時までを選択します。
毎日夜 21 時～朝 8 時まで本機器は報知動作しません。

例 3) 曜日と時刻両方選択: 毎週選択の曜日と毎日その時刻には本機器は報知動作しません。

※スリープモードの画面については P.67 を参照ください。

※地震報知中には設定変更 / 保存されても反映されません。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

■ 地震受信履歴

緊急地震速報の受信履歴が確認できます。

緊急地震速報を受信しますと画面のように 20130701_log (2013 年 07 月 01 日) 記録が残ります。緊急地震速報受信がない場合は記録に残りません。

- ① 発報 : 緊急地震速報を受信し、本機器が報知動作をしたかどうかを確認できます。
設定震度以上であり、報知した場合は「●」
報知動作条件に満たないもしくは設定震度以下であり、報知しなかった場合は「×」で表示します。

※報知動作条件：ア) 設定震度以上であること。
イ) 報知中に地震が来た場合、震度が高い場合は報知を更新します。
ウ) 震度が同様の場合は猶予時間が短い地震を優先し報知動作をします。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

② 気象庁からの震源地情報

- ア) 電文受信日時 : 緊急地震速報配信サーバーから本機器へ地震速報が届いた時刻です。
イ) 電文種別 : 気象庁からの受信した電文の種類(地震速報、訓練報、キャンセル報など)を表示します。
ウ) 地震発生日時 : 気象庁から地震発生が感知された時刻です。
エ) 震源地情報・地震の規模 : 緯度・経度・深さ・マグニチュードを表示します。

③ 演算結果(予測震度・予測猶予時間)

気象庁からの配信された震源地情報と本機器の設定場所情報(位置情報)から演算した予測結果を表示します。

④ テスト

気象庁からの発表された緊急地震速報(震源地情報)をそのまま利用しテストを行うことができます。

※履歴は 90 日間の記録を保存し、最初の記録から 90 日以降の記録は自動削除されます。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

津波受信履歴

津波受信履歴の確認ができます。

- ① 発報 : 気象庁からの津波情報を受信し、本機器が報知したかどうかを確認できます。津波情報を、報知した場合は「●」報知条件に満たず、報知しなかった場合は「×」で表示します。

※報知動作条件: ア) 津波警報・注意報設定条件の以上であること (P45 津波設定参照)
イ) 気象庁から発表された津波情報に設定地域が含まれていること。

- ② 電文区分 : 津波発令 / 津波解除 / 津波取消の電文情報を表示します。
- ③ 種別 : 津波発令の場合津波注意報・津波警報・大津波警報の津波規模が表示されます。
- ④ 津波電文受信・発生日時 : 気象庁からの津波電文受信時刻と津波電文発生日時刻を表示します。

※履歴は1年間の記録を保存し、最初の記録から1年以降の記録は自動削除されます。

5 ウェブブラウザ接続及び設定

端末管理

バージョン管理、パスワード管理、動作確認テスト、配信サーバー情報初期化、再起動など管理・運用するための設定になります。

- ① バージョンアップ管理
ウェブブラウザから本機器のバージョンアップができます。新しいバージョンがある場合はバージョンアップボタンが活性化されます。最新バージョンの場合はボタンが活性化されません。「最新バージョンです。」と表示されます。

- ② パスワード管理
ログインする時のパスワードの変更ができます。最初基本設定値は「admin」です。

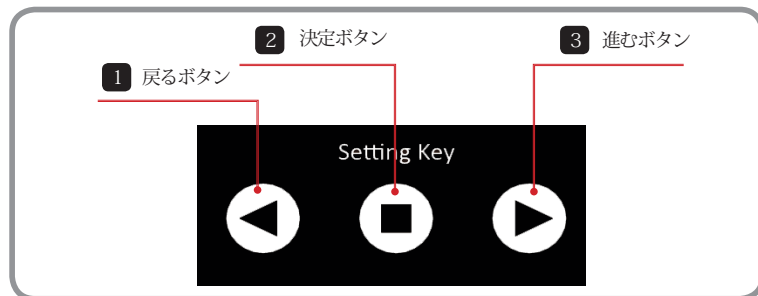
※注意
変更したパスワードを紛失し不明な状態になりますと、本体を工場出荷時の状態 (初期化) に戻さないとログインができなくなりますので、変更した際には必ず取扱説明書または、保証書などにメモするなどパスワード管理にはご注意ください。

- ③ 動作確認テスト
ア) 震度と猶予時間を選択して報知動作を行います。
イ) 震源地情報を直接入力して報知動作を行います。
ウ) 「震度3 20秒」「震度5強 20秒」「震度7 20秒」固定された結果を選択して報知動作を行います。
エ) 以前発生した大きい地震から選択して報知動作を行います。
- ④ 津波動作確認テスト
津波を選択すると報知動作を行います。報知動作はテスト中止を押すまで続けます。
- ⑤ 配信サーバー情報初期化
現在接続されている緊急地震速報配信サーバー情報を初期化し、新たに配信情報を取得します。(配信サーバーが変更された場合のみ使う機能ですので、通常は使用しません。)
- ⑥ 端末再起動
端末を再起動させます。

■ 画面の移動方法

◆ ボタン操作

本機器の前面には5つのボタンがあります。



1 戻るボタン

前の画面に移動します。(基本画面から戻るボタンを押すと地震受信履歴が確認できます。)

2 決定ボタン

3秒長押しすることで設定画面に移動します。
設定画面から選択した項目を決定します。

3 進むボタン

次の画面に移動します。
設定情報の確認ができます。



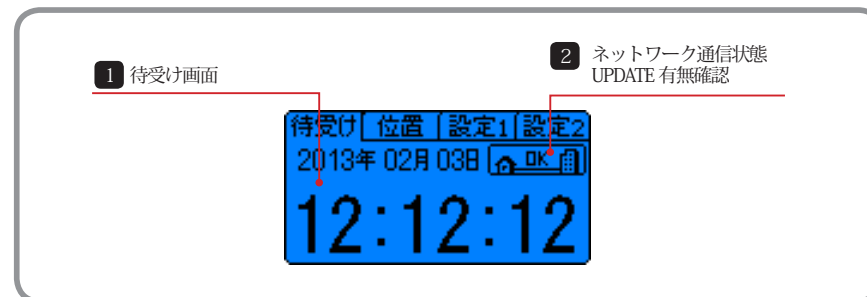
4 TEST ボタン

本体からの動作確認テストを行います。

5 CLEAR ボタン

報知動作以外の動作（接点出力を含む）をクリアします。

■ 「基本画面」表示内容



1 待受け画面

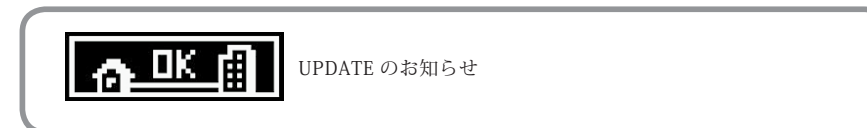
時計画面が表示されます。
この画面からはネットワーク状態確認と UPDATE 情報の有無が確認できます。

2 ネットワーク通信状態& UPDATE 有無確認

本機器と地震速報電文を配信するサーバーとの接続状態を表示します。
※「OK」と表示されている時が正常な状態です。



現在本機器のソフトウェアバージョンより最新のバージョンがあった際に反転させてお知らせします。



■ 「地震予報」表示内容 ①

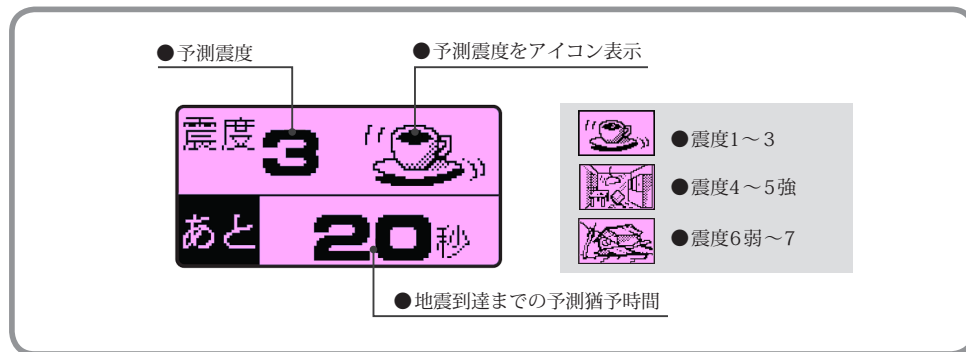
◆ 地震予報(予報報知)

実際の地震による緊急地震速報電文を受信し、設置場所の予測震度(演算結果)が設定値(※1)以上になったときに表示します。

また、同時に音声による報知を行います。次の内容が確認できます。

- 予測震度表示
- 地震到達時間までの猶予時間

※1…設定値「P.59 設定情報表示内容」「P.71 報知震度の設定」を参照してください。



◆ 地震予報終了(カウントダウン終了)後

予報内容を表示します。なお、地震情報は履歴として保存されます。(P.48、P.68 参照)



●地震受信画面

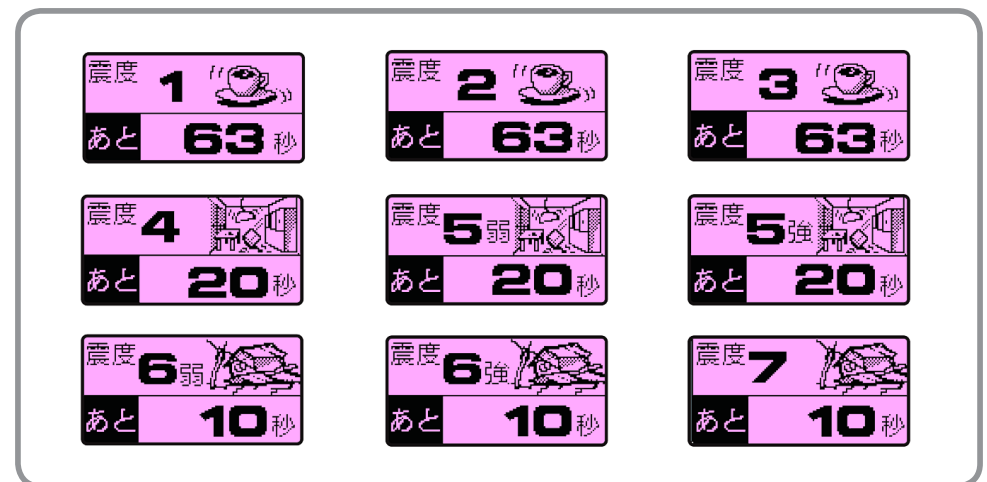
■ 「地震予報」表示内容 ②

◆ 地震予報画面の詳細

本機器の操作途中でも地震予報を行います。この時、音声案内は設定した表現(※1)により「地震震度X、SSS秒後。」、あるいは「X X X揺れが来ます」のように報知を開始します。

※1…設定した表現「P.38 告知サウンド設定」、「P.59 設定情報1」を参照してください。

注：地震予報の報知中は、ボタン操作ができません。



※本機器の操作中であっても、本機器がサーバーから地震速報を受信した場合は予報報知を行います。

◆ キャンセル報について

ごくまれに緊急地震速報を報知した後にその速報自体をキャンセル(取り消し)する速報が流れる場合があります。

端末はこのキャンセル報を受信しますと「取り消します。先ほどの地震速報は誤報です。」という音声通知を行います。外部機器(放送連動など)を接続している場合は、直前の緊急地震速報(予報)が誤りだったと理解して頂き、落ち着いた行動をとっていただきますようお願い致します。

なお、本機器はキャンセル報の受信可否の選択ができます。

「ウェブブラウザ基本設定 (P.36)、キャンセル報の設定 (P.73)」を参照してください。

「大津波警報・津波警報・津波注意報」表示内容

◆ 大津波警報・津波警報・津波注意報表示

気象庁から発表される津波情報の区域と本機器の設定の津波区域が一致した場合、報知します。



予想される津波の高さが0.2m以上、1m以下の場合報知

内容：「津波注意報発令」+ 指定の避難場所に避難してください。
「津波注意報発令」+ 海岸沿いから離れてください。



予想される津波の高さが1mを超え、3m以下の場合報知

内容：「津波警報発令」+ 指定の避難場所に避難してください。
「津波警報発令」+ 海岸沿いから離れてください。



予想される津波の高さが3mを超える場合報知

内容：「大津波警報発令」+ 指定の避難場所に避難してください。
「大津波警報発令」+ 海岸沿いから離れてください。

津波発令解除

最初の警報・注意報よりも津波が小さい、あるいは発生しない可能性が高いことが確認できれば、気象庁から警報・注意報の切り替えや解除の情報を受信し報知します。

内容：「発令・発表を解除します。」

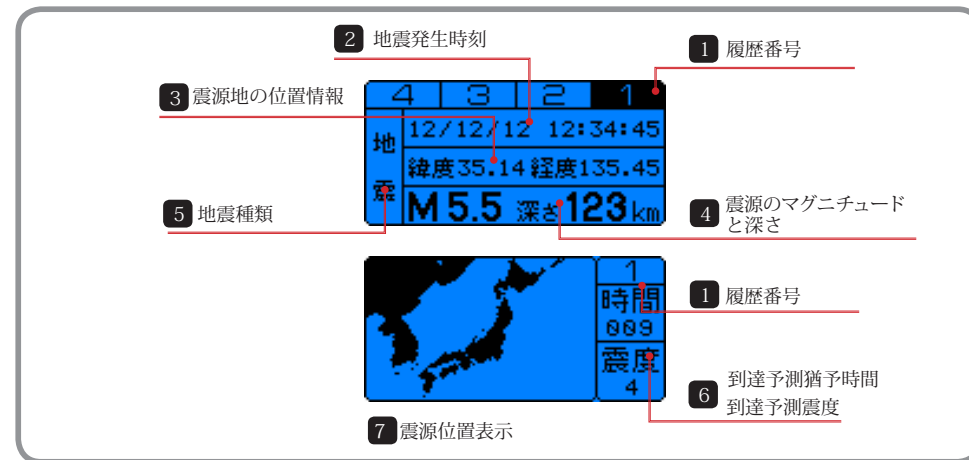
津波発令取消

発表された予測津波情報が誤報と判明された場合、津波誤報の情報を受信し報知します。

内容：「取り消します。先の発令・発表は誤報です。」

「地震履歴」表示内容

本機器は、過去に発生した4件の地震情報(受信電文情報の内、端末で予報した時のみ)を履歴として表示できます。



1 履歴番号&地震種類

最新の報知した予報内容を履歴番号「1」として登録します。複数件になった場合は「2→3→4」と順次表示します。履歴が4件以上になった場合は、古い履歴から削除します。ウェブブラウザからは90日間の履歴が確認できます。

2 地震発生時刻

地震が発生した日時を表示します。

3 震源地の位置情報

震源地の位置情報(緯度・経度)を表示します。

4 震源のマグニチュードと深さ

震源のマグニチュードと深さを表示します。

5 地震種類

地震の種類(地震/通過地震/キャンセル報)を表示します。

6 到達予測猶予時間・予測震度

実際に報知した予測内容を表示します。

7 震源位置

詳細情報で表示した震源地を地図上で表示します。サークルの中心が震源地になります。

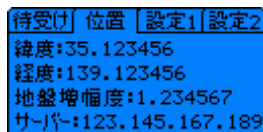
■ 「設定情報」表示内容①

◆ 基本画面 (待受け画面)



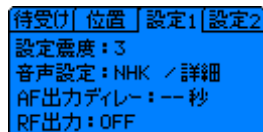
- 時計表示
- ネットワーク通信状態確認
- UPDATE 有無確認

◆ 位置情報



- 緯度・経度・地盤増幅度・配信サーバー確認
- お客様が本機器を使用するにあたり登録した住所の固有情報 (緯度、経度、地盤増幅度) を表示します。
- ※ 設置場所情報は定期的に確認し、本機器へ自動で設定されます。
- ※ 本機器の設置場所情報はお客様による手動設定ができません。設置場所変更の際にはご購入された販売元にお問い合わせください。

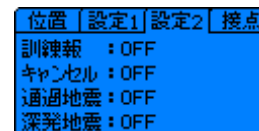
◆ 設定情報 1



- 震度レベル設定確認
- 演算結果が設定されている予報震度レベル以上である時に報知動作を行います。
(工場出荷時の予測震度震度レベル:「震度3」)
- 音声関連設定の情報確認
- 地震予報を報知する時の冒頭音と表現方法を表示します。
- ①冒頭音
無音 /REIC/NHK から設定された冒頭音を表示します。
- ②音声出力表現
- 詳細表現 … 予報の内容を数値で表現します。
- 曖昧表現 … 予報の内容を言葉で表現します。
(例: 物が倒れるぐらいの揺れがまもなく来ます)

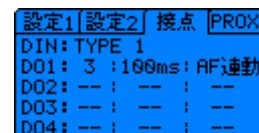
■ 「設定情報」表示内容②

◆ 設定情報 2



緊急地震速報受信設定が確認できます。
各電文受信設定についての詳細は P.72 ～ 75 ご参照ください。

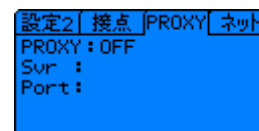
◆ 接点情報



接点について出力設定 (DO1、DO2、DO3、DO4) 及び入力 (DIN) の設定情報が確認できます。
DO X : 震度 / デイレイ時間 / 出力時間

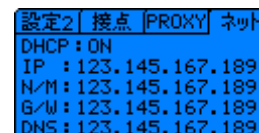
DIN : TYPE X
TYPE1 : 1 点以上入力
TYPE2 : 2 点以上の入力
TYPE3 : 3 点入力

◆ PROXY 情報



PROXY 設定の内容が確認できます。

◆ ネット情報



本機器のネットワーク設定情報が確認できます。

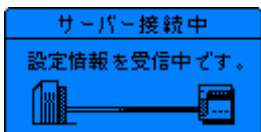
■ その他の表示内容

◆ 起動画面



電源投入時、あるいは本機器の初期化を行っているときに表示します。

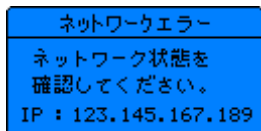
◆ 接続確認画面



初期化の後、インターネットを経由しサーバーから設定情報を受信しているときに表示します。

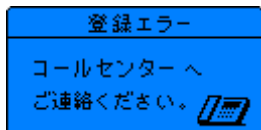
※ 接続ができないとエラー画面が表示されます。

◆ エラー画面



「ネットワークエラー」

お客様のネットワーク環境に問題がありサーバーと通信できないときに表示します。
お客様のネットワーク環境を確認してください。



「登録エラー」

サーバーと通信はできていますが、端末登録が完了していません。登録手続きを行ってください。それでも解決しない場合は、ご購入された販売元にお問い合わせください。

■ 本体メインメニュー表示

本機器の設定を行います。

1. ホーム画面

設定画面から待受け画面に戻ります。



2. 電文受信設定

報知震度設定、訓練報、キャンセル報、通過地震、深発地震の受信設定に移動します。



3. ネットワーク設定

DHCP、固定 IP 設定画面に移動します。



4. アップデート

本機器のアップデート確認画面に移動します。



5. 端末識別情報

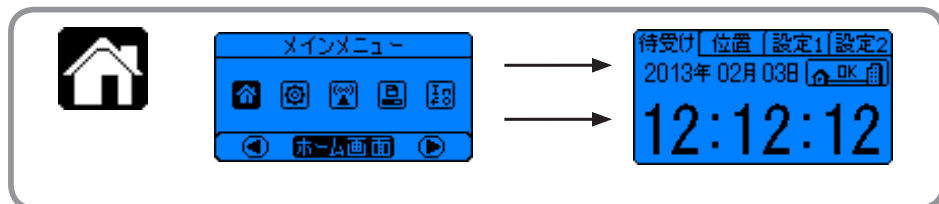
本機器の識別 ID 番号、MAC アドレス情報、バージョン情報が表示されます。



■ サブメニュー表示

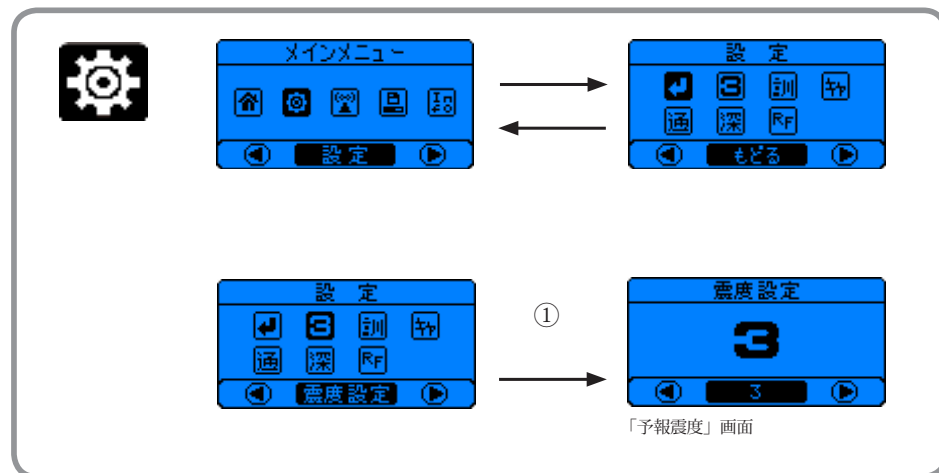
1. ホーム画面

メインメニューから待受け画面に戻ります。



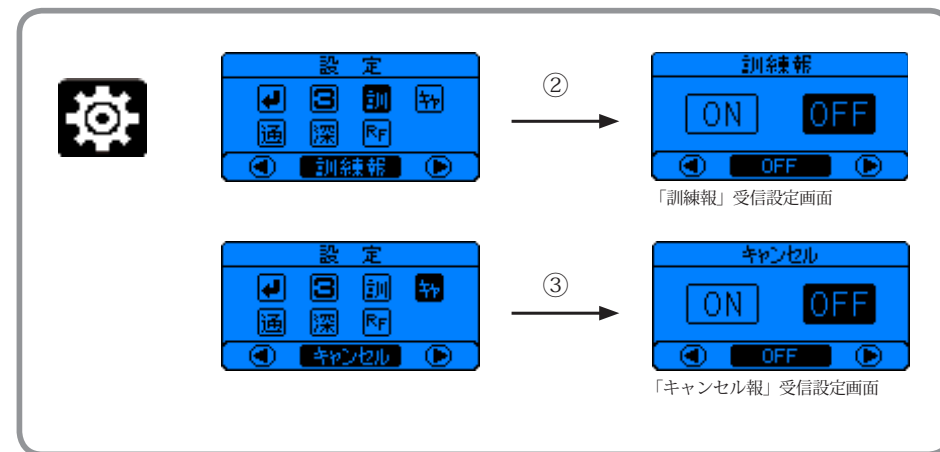
2. 受信設定

報知震度レベル、訓練報、キャンセル報、通過地震、深発地震受の受信設定に移動します。



① 報知震度設定

この画面に表示される震度以上の地震のみ報知動作を行います。
(設定方法については、P.36、P.71 参照)



② 訓練報

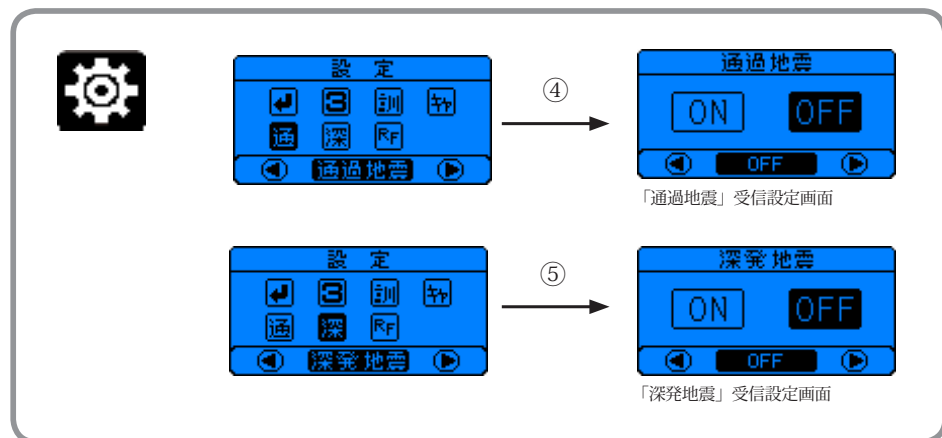
気象庁の訓練報や配信事業者の配信システムから配信される訓練用の緊急地震速報電文を受けて本機器を報知動作させるかを設定します。
(設定方法については P.36、P.72 参照)

ON	訓練報による報知動作を行います。
OFF	訓練報による報知動作を行いません。

③ キャンセル報

キャンセル報受信時に報知動作させるかを設定します。(設定方法については P.36、P.73 参照)

ON	キャンセル報による報知動作を行います。
OFF	キャンセル報による報知動作を行いません。



④ 通過地震

大きな揺れである S 波（主要動）の予測猶予時間がマイナスの場合（到達済の地震）に対して報知動作させるかを設定します。
（設定方法については P.36、P.74 参照）

ON	予測猶予時間が「-10 秒」までの地震に対して報知動作を行います。 報知音声はマイナス秒の場合であっても「地震 震度 x」となります。
OFF	予測猶予時間が「+1 秒」以上の地震に対して報知動作を行います。

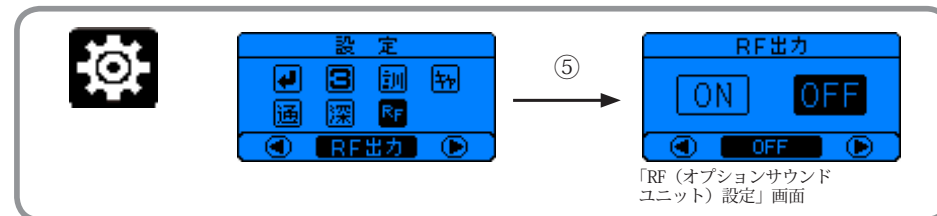
※ 本機器の緯度経度設定付近で地震が発生した場合や直下型地震等では S 波の到達予測猶予時間が報知動作に間に合わない可能性があります。このような場合においても報知動作させたい時は通過地震設定を「ON」にすることで報知動作の許容を拡大することができます。

⑤ 深発地震

震源の深さが 150km よりも深い地震に対して動作させるかを設定します。
震源の深さが 150km 以遠の場合、予測結果に大きな誤差を含む可能性が高くなります。

（設定方法については P.36、P.75 参照）

ON	深発地震による報知動作を行います。
OFF	深発地震による報知動作を行いません。



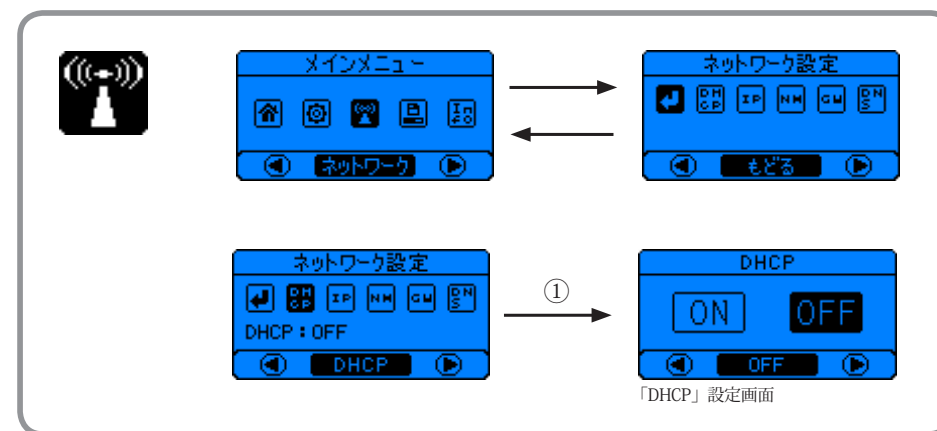
⑥ RF 出力

本製品からオプションサウンドユニットに対して無線電波（RF）信号出力の有・無を設定します。

ON	オプションサウンドユニット向けの無線電波（RF）を送信します。
OFF	オプションサウンドユニット向けの無線電波（RF）を送信しません。

3. ネットワーク設定

DHCP、固定 IP 設定画面に移動します。



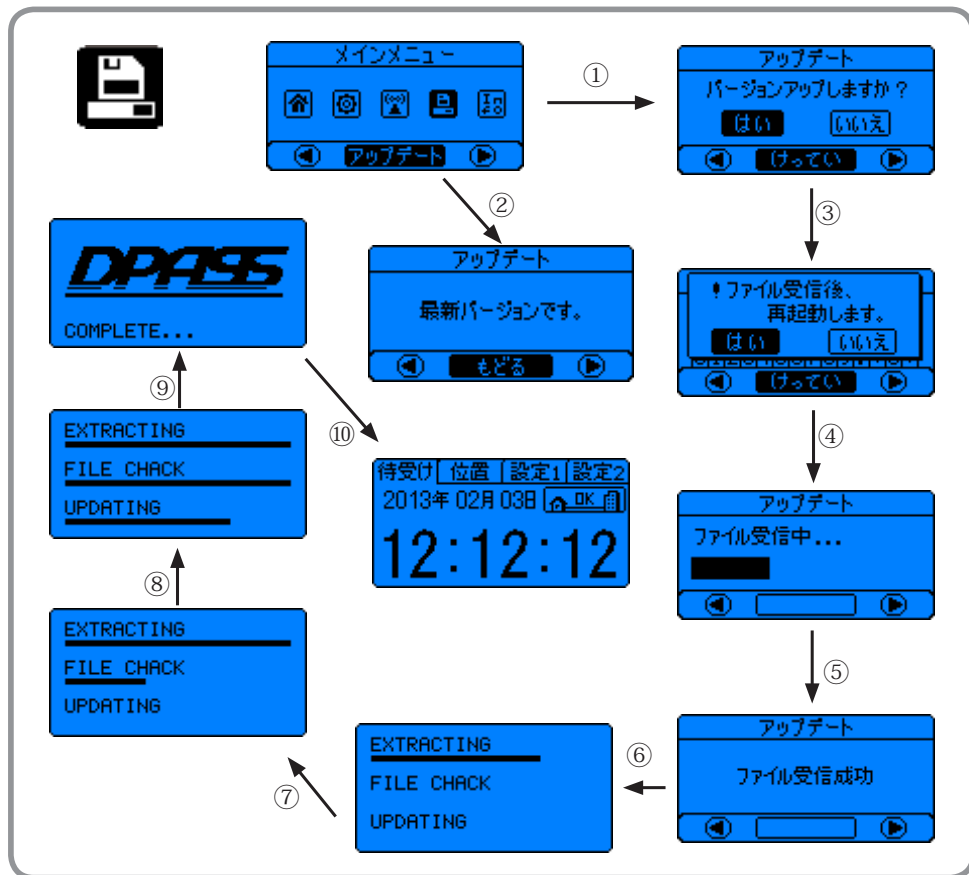
① DHCP 設定

本機器のネットワーク設定方法を設定します。
（設定方法については、P.37、P.77 参照）

ON	ネットワーク設定情報を自動取得します。
OFF	手動設定されたネットワーク情報を適用します。（固定 IP 設定対応）

4. アップデート

本機器のアップデート確認画面に移動します。



アップデートの流れ

- 1) 新しいバージョン情報を確認します。
有無は基本画面（時計画面）の右上で確認できます。（P.53 参照）
- 2) 新しいバージョン情報があると色が反転されますので、バージョンアップを実行してください。バージョンアップは新しいバージョン情報があるときのみ実行が可能です。
- 3) 本体の決定■ボタンを長押ししてメインメニューに移動します。
アップデートを行う場合は上記の画面に従いアップデートを行ってください。

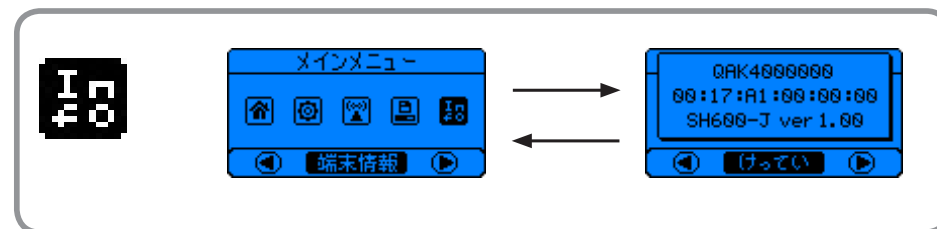
※アップデート時には本機器の再起動が必要になります。アップデート終了まで2分～3分程度かかりますので、その間は緊急地震速報など電文受信ができなくなり、報知することができません。

※注意事項を確認の上、アップデートを行ってください。

※上記のイメージの④～⑩は自動的に実行され、再起動及びアップデート内容の適用後、⑩の基本画面（時計画面、待受け画面）に戻ります。（アップデートする前の設定内容はそのまま維持します。）

5. 本機器の識別情報

本機器の識別 ID 番号、MAC アドレス、バージョン情報が表示されます。

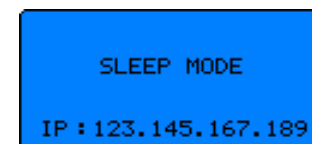


本機器の識別 ID 番号（QAK44XXXXX）、MAC アドレス、バージョン情報が確認できます。

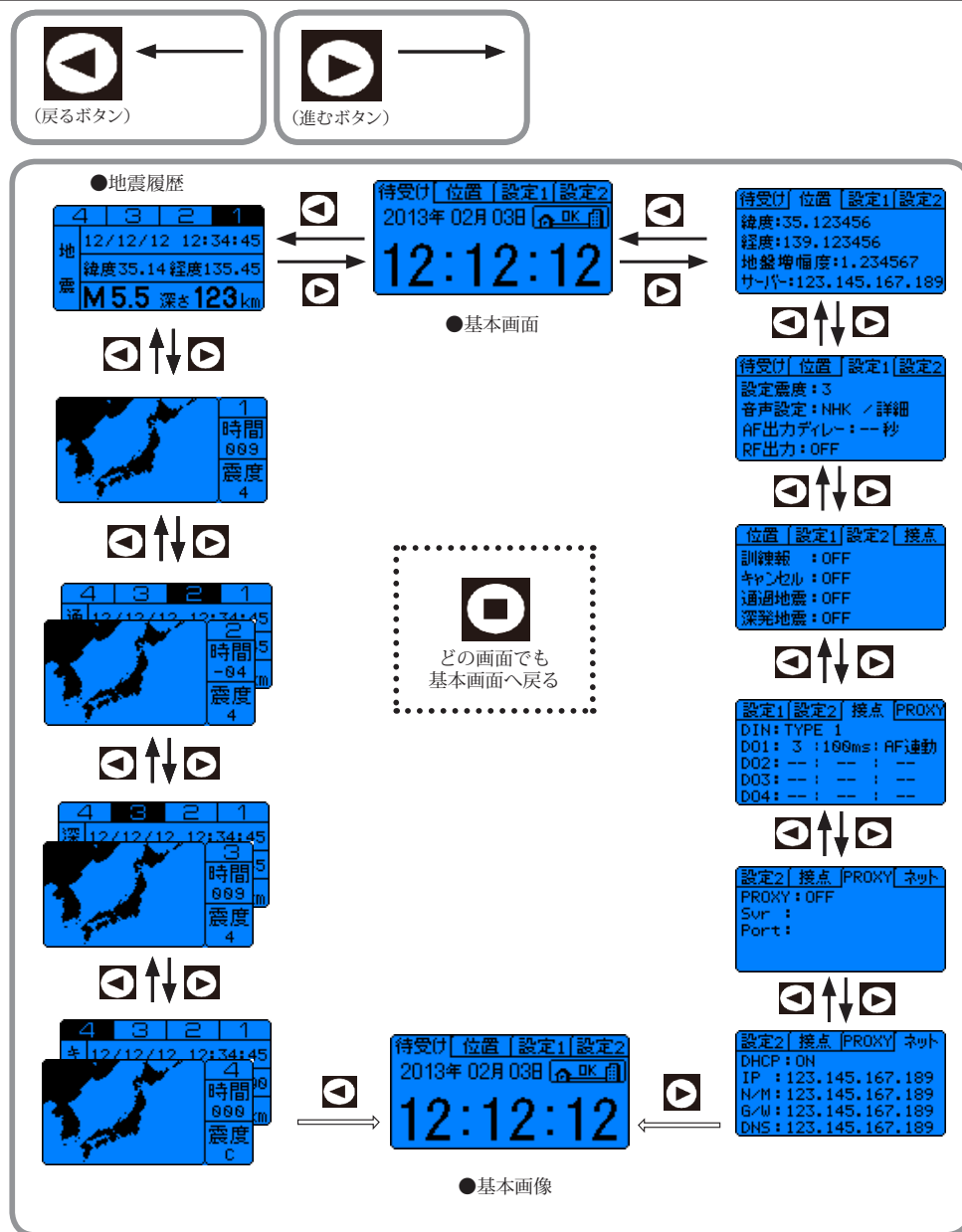
6. その他画面（スリープモード）

ウェブブラウザから設定された曜日 / 時刻により、スリープモードに移行した際の画面表示です。

スリープモード起動時には端末操作ができないため、ウェブブラウザ接続情報として本機器に設定されている IP アドレスを表示します。

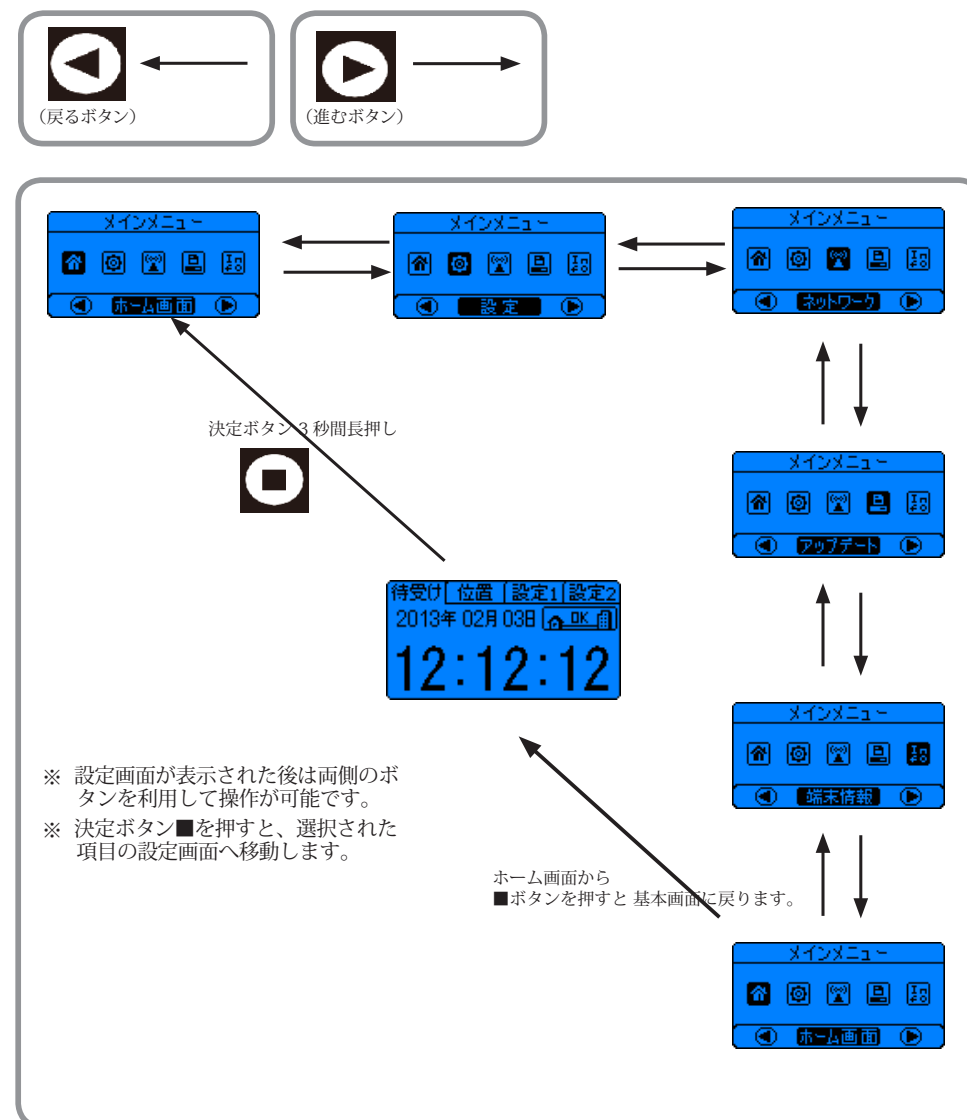


■ 「地震履歴」&「設定情報」の参照操作の画面遷移図

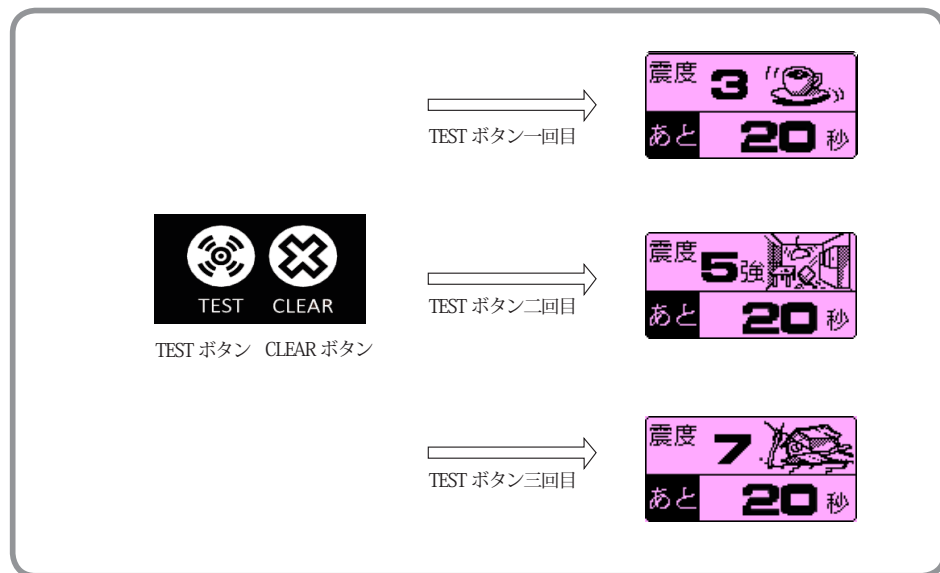


■ 「設定」画面でのボタン操作

設定画面へ移動するときは  ボタンを3秒長押ししてください。



■ 「報知テスト」の操作



本体の TEST ボタンを約 3 秒長押しすることにより、地震速報のテストの報知が実行できます。一回目は震度 3、二回目は震度 5 強、三回目は震度 7、4 回目は震度 3 にもどり報知します。

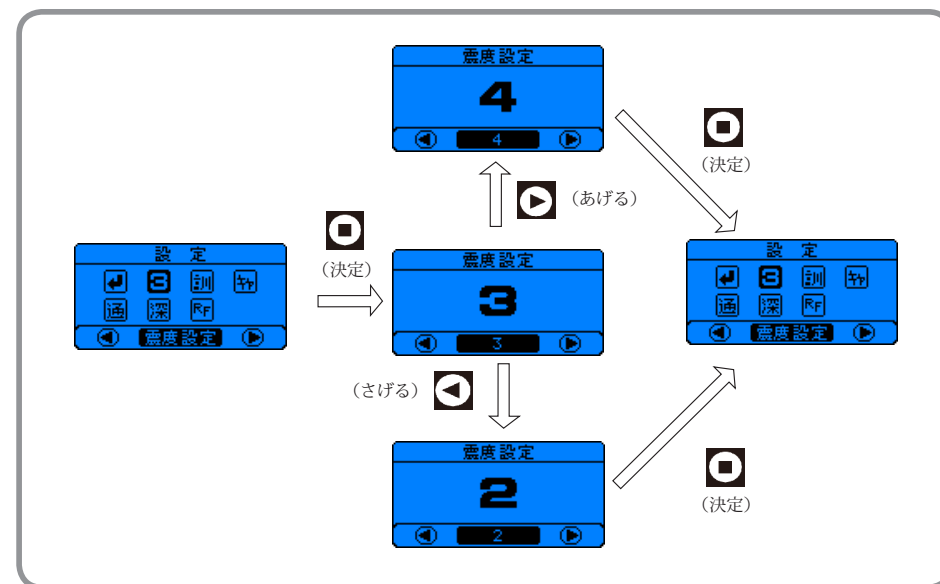
テスト報知内容

- ・「動作確認テストです。震度 3、18 秒後」
- ・「動作確認テストです。震度 5 強、18 秒後」
- ・「動作確認テストです。震度 7、18 秒後」

予測猶予時間は 20 秒ですが、冒頭音「動作確認テストです」と震度情報「震度 X」報知で 2 秒を使っていますので、報知される猶予時間は 18 秒で報知されます。

- ※ TEST ボタン報知中地震速報が来た場合は地震速報を優先に報知動作を切り替えます。
- ※ TEST ボタン報知途中、CLEAR ボタンを長押ししますと報知の停止ができます。
- ※ ウェブブラウザからもテストできます。(P.51 参照)

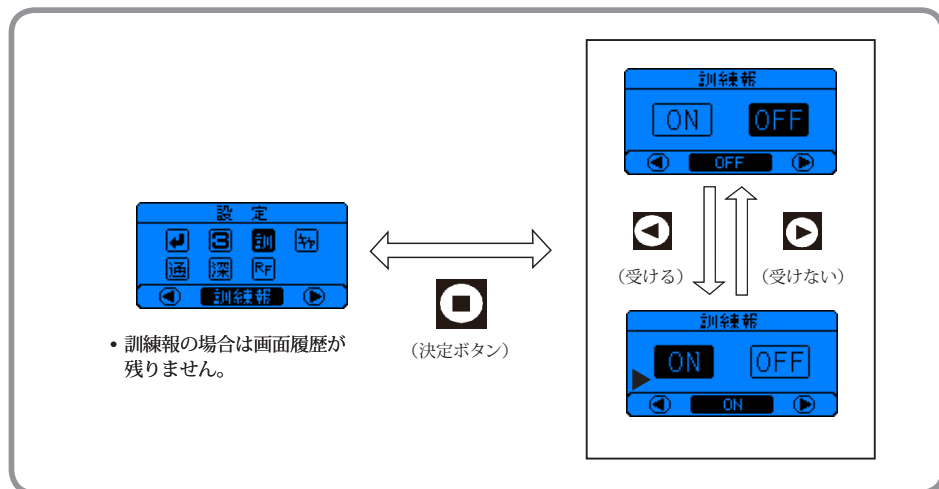
■ 「報知震度」の設定



- ・基本画面から■ボタン長押し⇒メインメニューから「設定」を選択⇒震度設定に移動し■で選択
- ・進む ► ボタンと戻る ◀ ボタンを押すことによって数値を上げ / 下げができます。希望の数値に合わせた後、決定■ボタンを押してください。設定数値を保存後、「震度設定」画面に戻ります。
- ・予報レベルは 1 ～ 4、5 弱、5 強、6 弱、6 強、7 から選択できます。
- ・工場出荷時の設定は、「3」に設定されています。

※ウェブブラウザからも設定できます。(P.36 参照)

■ 「訓練報」の設定



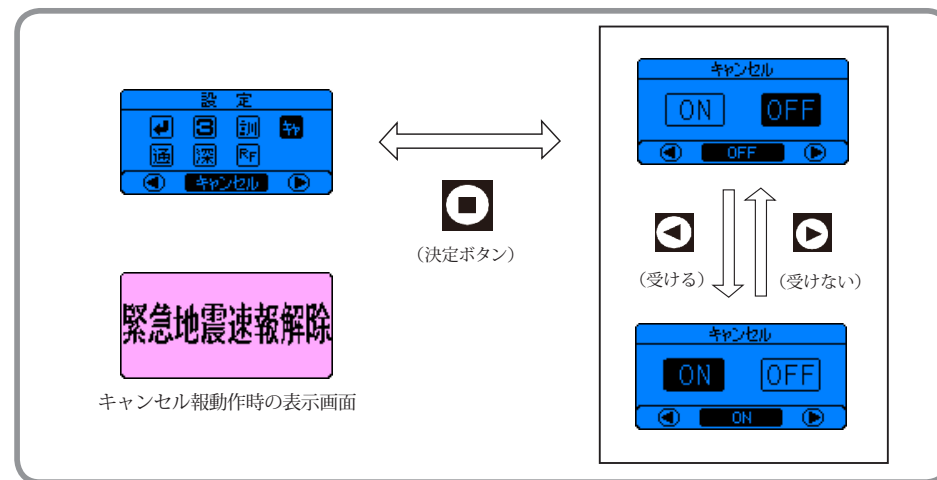
- 緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかであり、その短い間に、あわてずに身を守るなど適切な行動をとるためには日ごろからの訓練が重要です。内閣府と気象庁では、国民の皆様様に緊急地震速報を見聞きした際の行動訓練を実施していただくため、緊急地震速報が法律上の警報・予報として位置づけられた12月1日に、緊急地震速報の全国的な訓練を実施することとしています。気象庁は、毎年12月1日午前10時15分頃(※1)、訓練用の緊急地震速報(以下「訓練報」といいます。)を配信しますので、家庭や民間企業等の皆様は、受信端末で伝達される訓練報を見聞きすることにより、机の下に隠れるなど、身の安全を確保するための行動を試してください。この訓練では、全国的に受信端末を起動させる必要があることから、震源要素が異なる複数の訓練報を、短時間(10数秒程度内)に、連続して配信する計画です。お住まいの地域や受信端末の設定状況によっては、受信端末が複数回動作することがあります。訓練報を受信した際に、お持ちの受信端末がどのように動作するかについては、ご購入された販売店にお問い合わせください。

※1…訓練報、実施日は見直される場合があります。また、地震の発生状況等により、訓練用緊急地震速報の配信を中止する場合があります。

- 「電文受信設定画面」で「訓練報設定」を選択して決定 ■ ボタンを押し、「訓練報」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってON/OFFの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「電文受信設定画面」に戻ります。
- 訓練報を「ON」に設定した場合は、気象庁の訓練報および配信事業者からの配信テストに対して動作し、予測演算結果が設定震度以上になった場合「配信テストです。震度X、SS秒後」(詳細表現選択時)と報知します。「OFF」に設定した場合は、訓練報および配信テストに対して動作しません。
- 工場出荷時の設定は、「OFF」に設定されています。

※ウェブブラウザからも設定できます。(P.36 参照)

■ 「キャンセル報」の設定

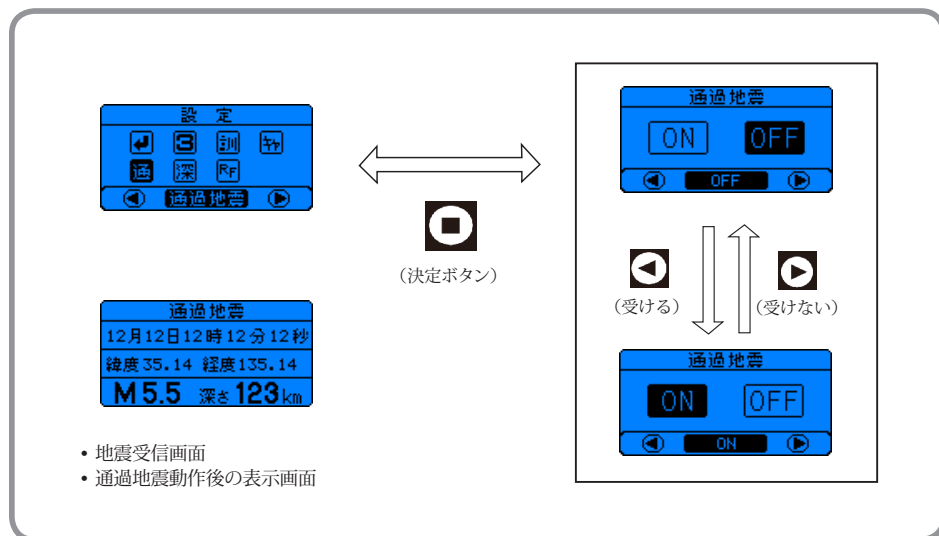


- 「電文受信設定画面」で「キャンセル報設定」を選択して決定 ■ ボタンを押し、「キャンセル報」の選択画面に入ります。
- 戻る◀ボタン、進む▶ボタンを押すことによってON/OFFの選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「電文受信設定画面」に戻ります。
- キャンセル報を「ON」に設定した場合は、直前に報知動作した緊急地震速報のIDと一致したキャンセル報に対して反応し、本機器より「取り消します。先ほどの地震速報は誤報です。」という音声で報知動作します。「OFF」に設定した場合は、キャンセル報に対して動作しません。
- 本機器で、このキャンセル報を受信した際には、直前の緊急地震速報(予報)が誤りだったと理解して頂き、落ち着いた行動をとっていただきますようお願い致します。
- 工場出荷時の設定は、「OFF」に設定されています。

※ 1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報(予報)を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒~10数秒程度でキャンセル報を発信します。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合があります。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度がかかることがあります。

※ウェブブラウザからも設定できます。(P.36 参照)

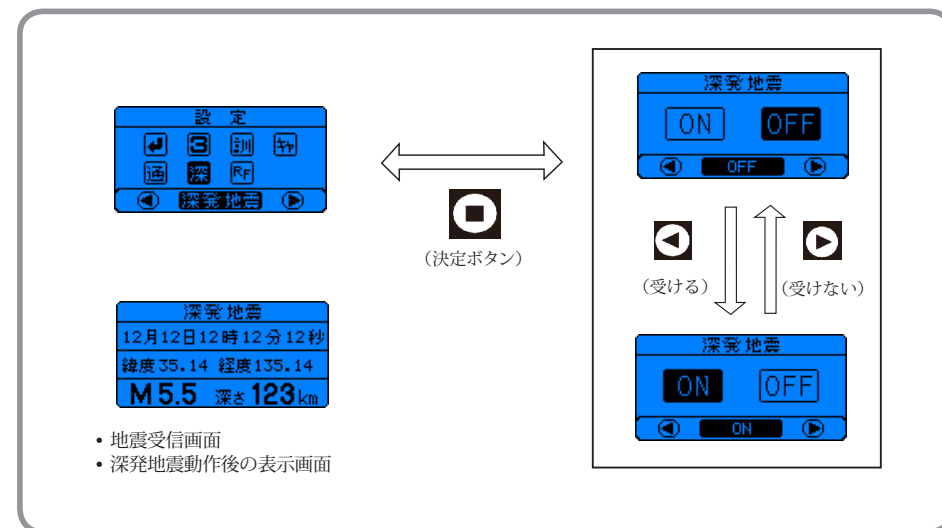
■ 「通過地震」の設定



- ・「電文受信設定画面」で「通過地震設定」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「通過地震」の選択画面に入ります。
- ・戻る ◀ ボタン、進む ▶ ボタンを押すことによって ON / OFF の選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「電文受信設定画面」に戻ります。
- ・通過地震は、地震到達猶予時間が無い（予報が間に合わない）場合（－10秒の範囲まで）にも報知動作させたいときに使用します。猶予秒数が0～－10秒の場合の報知内容は、「地震 震度 X、」（詳細表現選択時）となります。
- ・通過地震を「OFF」選択時に猶予秒数が0秒を下回った場合は、本機器は報知動作しません。また、通過地震を「ON」選択時に猶予秒数が－10秒を下回った場合も本機器は報知動作しません。
- ・工場出荷時の設定は、「OFF」に設定されています。

※ウェブブラウザからも設定できます。（P.36 参照）

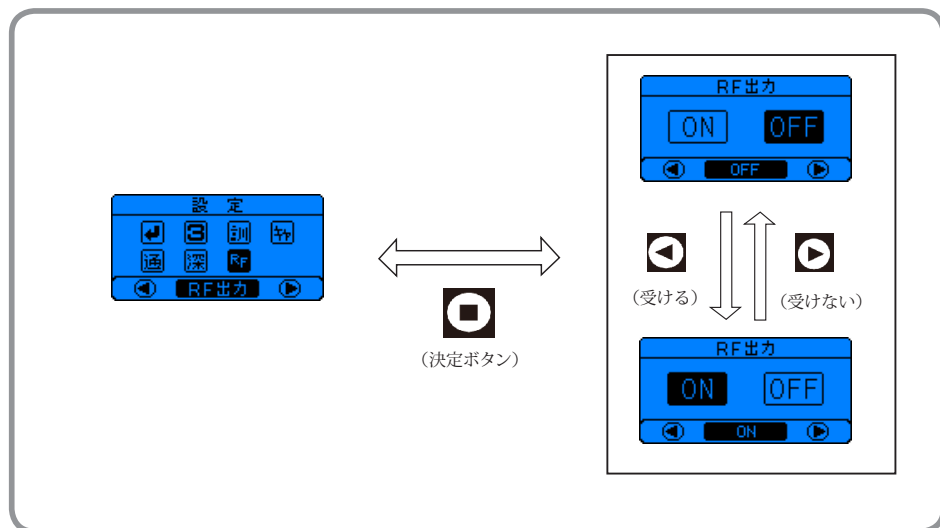
■ 「深発地震」の設定



- ・「電文受信設定画面」で「深発地震設定」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「深発地震」の選択画面に入ります。
- ・戻る ◀ ボタン、進む ▶ ボタンを押すことによって ON / OFF の選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「電文受信設定」画面に戻ります。
- ・深発地震は、震源の深さが150kmよりも深い場合、震度および地震到達猶予時間の予測演算結果に大きな誤差を含む可能性が高くなります。お客様側で「ON / OFF」の選択をしてください。
- ・深発地震「ON」に設定した場合は、震源の深さに関係なく動作します。「OFF」に設定した場合は、震源の深さが0～150kmの地震に対して動作し150kmを超える深さの地震に対しては動作しません。
- ・工場出荷時の設定は、「OFF」に設定されています。

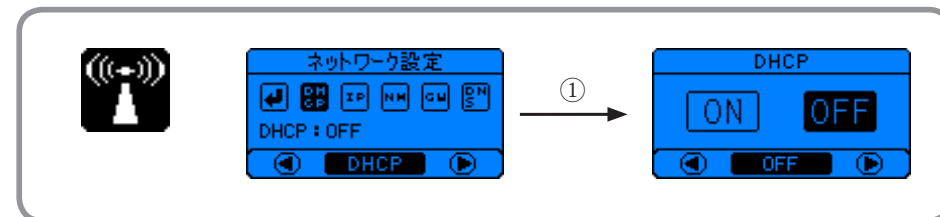
※ウェブブラウザからも設定できます。（P.36 参照）

■ オプションサウンドユニットへの送信設定（「RF」の設定）

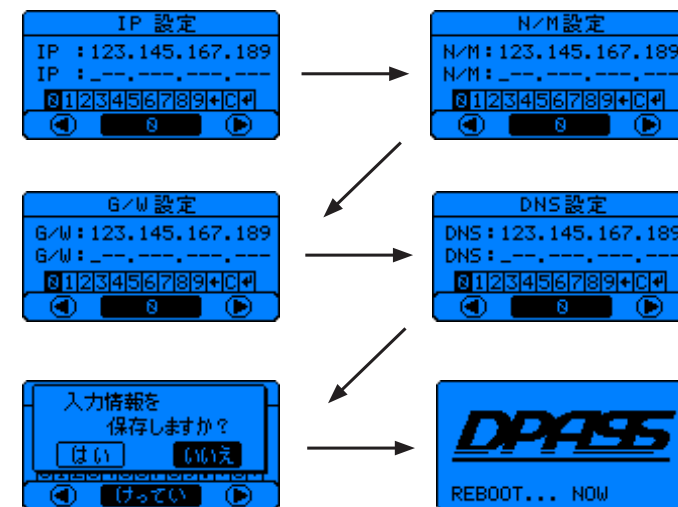


- ・「電文受信設定画面」で「RF 設定」を選択して決定 ■ ボタンを押すと、「RF 出力」の選択画面に入ります。
- ・戻る ◀ ボタン、進む ▶ ボタンを押すことによって ON / OFF の選択をします。希望の設定に合わせた後、決定 ■ ボタンを押してください。設定保存後、「電文受信設定画面」に戻ります。
- ・RF 設定は「オプションサウンドユニット」へ無線電波 (RF) を出力することを設定する機能です。
※ウェブブラウザからも設定できます。(P.36 参照)

■ 固定 IP 設定 (DHCP OFF)



DHCP (IP 自動取得)「OFF」にしますとネットワーク情報 (IP アドレス、ゲートウェイ、サブネットマスク、DNS) 入力が必要になります。
※ウェブブラウザからも設定できます。(P.37 参照)

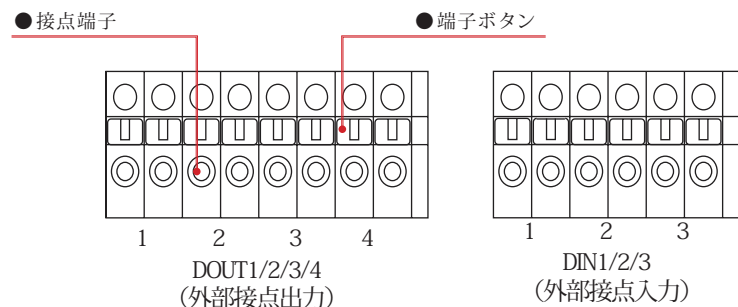


DHCP を「OFF」にしますと IP 設定ができるようになります。
IP/NM/GW/DNS を戻すボタンと進むボタンで移動しながら数字を選択し入力します。
入力が終わりますと情報を保存するを選択してください。選択すると自動的に再起動します。

外部接続端子について

※ご購入された販売店の指定業者の指示なく外部接続端子に接続しないでください。

※ DO/DI の端子は、スクリューレスプッシュ式ですので、接続の際には電線の被覆剥いてそのまま挿入してください。最後まで入らない場合は、各端子のボタンを軽く押して挿入してください。



※無電圧ループ接点になっています。定格電圧 (38V) を超える電圧は与えないでください。故障の原因となります。

※接続可能電線は、AWG26 ～ 20 の範囲でご使用ください。電線被覆剥きしろは、8 ～ 9mm です。

出力

・外部接点出力 DOUT(DO1/2/3/4) は 4 チャンネル、無電圧ループ出力です。

※ DO 端子に誘導性負荷（モーターや機械式リレーなど）を直接接続する場合は十分な逆起電力対策・サージ吸収対策を講じてください。

（接点抵抗値は、OPEN：600 MΩ以上 / CLOSE：0.7 Ω以下です。）

・接点端子の動作タイミングは報知震度設定・ディレイ・AF 連動・連動・時間設定・津波など設定により開始タイミング、終了タイミング設定ができます。

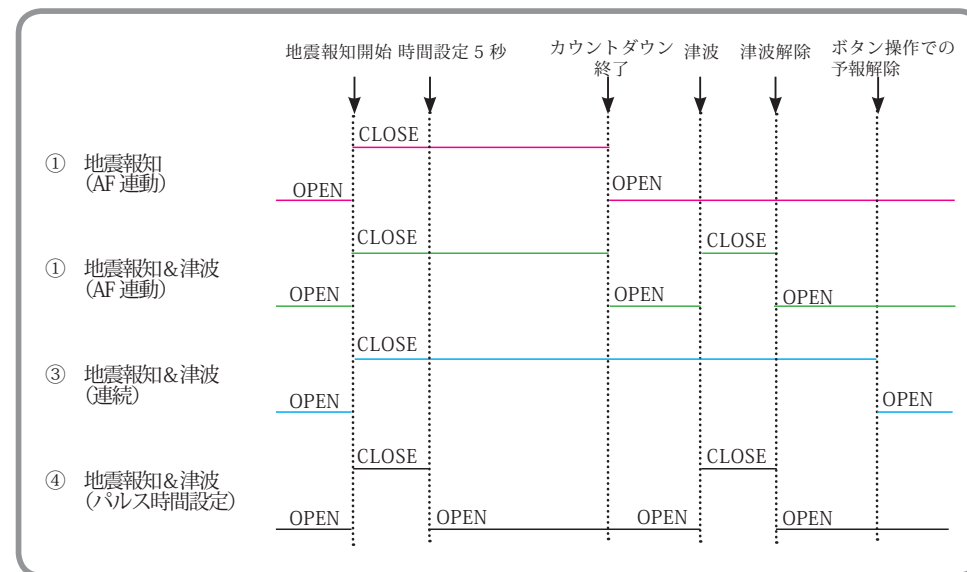
（P.79 のタイミングチャートをご参照ください。）

※連続の場合は地震報知後に解除（ボタン解除・気象庁からの誤報報知）するまで ON（A 接点：CLOSE、B 接点：OPEN）のまま継続します。

入力

・外部接点入力 DIN(DI1/2/3) は 3 チャンネル、無電圧ループ出力です。

・OPEN 時、3.6V ～ 4.0V の電圧がでています。CLOSE 時約 5mA の電流が流れます。接続回路の抵抗は 50 Ω以下に収まるようにしてください。



— 外部接続端子出力タイミングチャート —

定期点検

本製品は常に安定稼働させるために、定期点検を行ってください。

日常の点検

本製品のディスプレイの「第 6 章 画面の表示 基本画面 (P.53)」で、以下の点を確認してください。

1. 「時計」が正しく表示されていること。
2. 「サーバー接続状態」が「OK」になっていること。
3. サウンドユニットを併用している場合は、予報テスト（P.49、P.68 参照）を行い、サウンドユニットから予報が適切な音量で聞こえること。

上記にかかわらず、本製品に異常が見られた場合は、ただちにご購入された販売元までご連絡ください。

業者による点検

本製品の内部で使用している部品の劣化や寿命などを点検するために、1 年に 1 回は指定業者に点検を依頼してください。

※業者による点検につきましてはご購入された販売店にお問い合わせください。

■ トラブルシューティング

電源を入れても画面に何も表示されません。	1. 本体正面の右側の電源ランプ（PWR：赤）が点灯しているかお確かめください。 2. 本機器付属の AC アダプターをお確かめください。 ※ AC アダプターは AC100 V、50/60Hz 専用です。 ※ 変圧機等を使用している場合、その本機器の仕様をもう一度お確かめください。
本体の STATUS ランプおよびディスプレイが ON / OFF を繰り返します。	本機器は STATUS ランプを点滅させることによって異常が発生していることをお伝えします。サーバーとの通信ができない場合、約 30 秒単位で通信リトライを行い、11 分経過しますと自動的に再起動をします。接続できるまで通信リトライと再起動を繰り返します。次の項目を確認してください。 ● サーバーとの接続ができないとき 1. ネットワーク環境をお確かめください。（ハブ、ルーター、プロバイダー） 2. ルーターセキュリティ設定の TCP「9001」ポートの制限を許可してください。 3. ルーターの DHCP 設定を有効にしてください。 ● 通信ができてても端末登録手続きが完了していない時 「第 4 章 設置する前に（P.24）」を参照してください。
ディスプレイ画面のサーバー接続状態「×」のままです。	本機器はお客様のご使用のネットワーク環境からプロバイダーの通信回線を経由して弊社のサーバーへ接続されます。時により不具合が生じることでサーバー接続状態が「×」になるとことがあります。 1. 電源を入れ直してその変化をお確かめください。 2. LAN ケーブルが正しく接続されているかお確かめください。 3. ハブ、ルーター、インターネットプロバイダーの設定をお確かめください。 4. 使用しているネットワーク機器（ルーター、ハブ）の電源を入れ直してください。 5. ルーターセキュリティ設定の TCP「9001」ポートの制限を許可してください。 6. ルーターの DHCP 設定が有効になっているかお確かめください。 7. パソコンやネットワーク本機器が本機器と同じ IP アドレスを使っていないかお確かめください。 8. 回線業者（プロバイダー）からのメンテナンスなど回線障害があった場合、ルーターの再起動が必要なケースもあります。
パソコンから本機器のウェブブラウザにログインできません。	1. ログイン画面が表示されない場合 入力した IP アドレスと本機器の IP アドレスが一致しているかお確かめください。 2. ログイン画面からログインができない場合 入力しているパスワードが正しいかどうかお確かめください。 出荷時のパスワードは「admin」となります。

ボタンの操作ができません	1. 報知後は、地震受信画面のままでは本機器の操作は一切できません。報知の内容を確認後、CLEAR ボタンを押して基本画面に戻してください。 2. 地震予報が報知している最中はボタンの操作はできません。 3. 本機器に電源を入れて基本画面が出てくるまで操作はできません。 4. サーバーとの通信ができない状態が約 12 分続くと、自動的に再起動しますが、この時にもボタンの操作ができなくなります。
画面の文字が見えません	本体の電源を入れ直してください。 復旧しない場合は、ご購入された販売店へお問い合わせください。
その他	その他の疑問点や本機器の不具合がありましたら弊社 WEB サイト (http://www.dpass.jp) をご参照頂るかご購入された販売店にお問い合わせください。 ※お問い合わせの際には必ず、お客様が使用している機器の識別 ID をお伝えください。（本体裏面のリアラベルにも記載されています。）
修理の受付	本機器の不具合等による交換を希望の方は、ご連絡いただく前に、本書や弊社 WEB サイト (http://www.dpass.jp) を参照し、設置方法や設定等が正しいか再度ご確認ください。正しく設置や設定を行っているにもかかわらず不具合が改善されない場合は、ご購入された販売店までご連絡ください。 ● 保証期間中の場合 保証書の記載に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書裏面の保証規定をお読みください。 ● 保証期間後の場合 ご要望により有料で対応させていただきます。



ご注意 ～必ずお読みください～

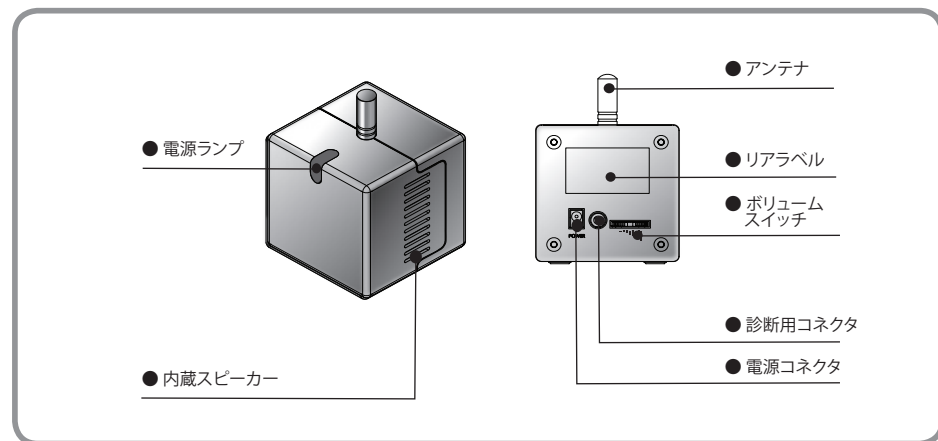
- 本製品の修理を依頼される場合は、ご購入された販売店までお問い合わせください。
- 修理の際、本製品は工場出荷時の状態に戻ります。お客様が行った設定、および報知履歴は消去されます。
- 上記は変更になる場合もありますので、お問い合わせ窓口 WEB サイト (<http://www.dpass.jp>) で最新の情報をご確認ください。
- 「初期不良」は、製品のご購入後 1 週間以内にご購入された販売店へご連絡いただいた場合に限りです。

■ オプションサウンドユニット名称（品番：SH600-J-S）

このオプション品を使用することにより、本体から離れている場所（部屋）でも予報を聞くことができます。（一台の SH600-J に対して接続できる子機の数に制限はありません）

※ サウンドユニットはオプションです。

詳しい情報はご購入された販売店へお問い合わせください。親機の RF 出力が「ON」に設定されている必要があります。電波到達距離は、直線距離で目安 30 m です。設定環境によって短くなる場合があります。



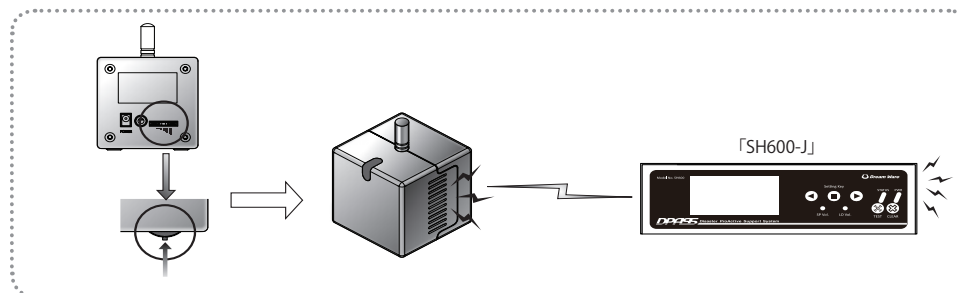
- 電源ランプ
AC アダプターからの通電により点灯します。
また SH600-J の ID 検出中には遅く、発報時に早く点滅します。
- アンテナ
SH600-J からの信号を受信します。
- ボリュームスイッチ
本製品のボリュームの調整をします。
- リアラベル
本製品の品番などが記載されています。
- 内蔵スピーカー（左右 x 各1）
本製品の操作ボタンの操作音や音声を発報します。
- 電源コネクタ
本製品専用の AC アダプタを接続します。
- 診断用コネクタ
本製品の診断のための端子です。（通常は使用しません。）
（イヤフォン等を挿入しないでください。故障の原因になることがあります。）

■ SH600-J ID 登録及び操作方法

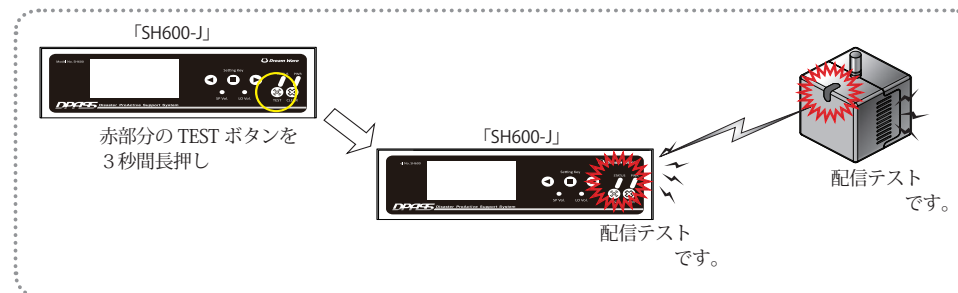
◆ SH600-J ID 登録

本製品は、最初に電源をいれた時に自動的に周辺の SH600-J を検出して ID 登録します。初回接続時に自動登録ができなかった場合や不具合などで本機器の交換を行った場合は、下記の手順に従い ID を再登録させてご使用ください。

1. SH600-J が正常動作し、電源ランプが点灯していることを確認します。
2. 正常動作している SH600-J のすぐそば（30 ～ 50cm 以内）で、本製品の電源を入れ電源ランプが点灯状態になることを確認します。
3. 本製品のボリュームスイッチをまっすぐに 5 秒間押し続けてください。メロディと共に電源ランプが点滅に変わり、認識している ID をクリアし SH600-J の検出状態になります。この点滅状態の時に、本製品は自動的に一番近くで稼働している SH600-J を検出し自動 ID 登録を行います。
※点滅している間は、SH600-J を検出しておりますので SH600-J との距離を離さないでください。
※作業周辺に SH600-J が複数ある場合、該当以外の SH600-J は一度電源を切ってください。
4. 登録が完了すると、電源ランプが点灯に変わります。
※設置周辺に電波影響を及ぼす電子本機器があると登録が出来ない場合がございます。その際は SH600-J の画面に SH600-J-S のアンテナの先端部分を最大近づけて、再度 3. から作業を行ってください。
5. SH600-J から「テスト発報」を行い連動して報知することを確認してください。（P.70 テスト発報参照）
6. 本製品をご希望の場所に設置して、再度 SH600-J から「テスト発報」を行い、正常動作を確認してください。



● SH600-J からのテスト発報方法（参考）

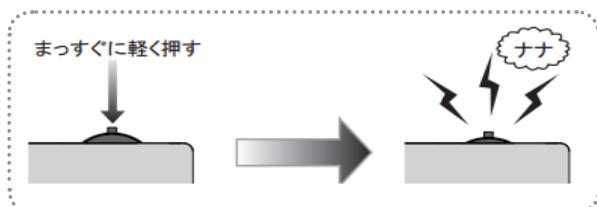


9 オプションサウンドユニット

◆ 操作方法&ボリュームの設定

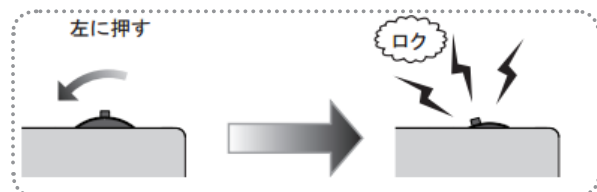
● 現在ボリュームの確認

ボリュームスイッチをまっすぐに軽く押してください。



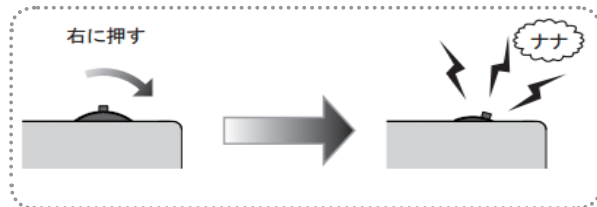
● ボリュームを下げる

ボリュームスイッチを左に1回軽く押してください。



● ボリュームを上げる

ボリュームスイッチを右に1回軽く押してください。



・品番	: SH600-J-S
・電源電圧	: DC6V AC アダプタ使用 (出力: DC6V-800mA)
・定格入力	: AC100V (50/60Hz) DC6V-800mA
・待機消費電力	: AC 待受け時 0.9W、最大 2.8W
・内臓スピーカー出力	: 500mW x 2 (参照値: レベル 10 の時 86dB/ 距離 1m)
・寸法	: W60mm x H60mm x D60mm (突起部除く)
・重量	: 111g (本体のみ)
・材質	: 難燃 ABS
・温湿度条件	: 温度 0 ~ 60℃ (40℃ 93% RH 以下、結露しないこと)
・SH600-J との通信方式	: FM 無線方式
・使用周波数帯	: 449.7125 ~ 449.8750MHz
・転送速度	: 2.4Kbps
・出力レベル	: 1mW 以下
・電波到達可能距離	: 室内約 30m (参考値)・・・※

※ 電波到達可能距離は参考値です。ご使用環境において周辺電子本機器の状態によっては、電波の到達に支障が生じる場合があります。SH600-Jからの信号を受信できない場合がございます。弊社及び販売元は、これによって発生したいかなる損害に関して、一切の責任を負いません。

9 オプションサウンドユニット

■ 音声内容

◆ 緊急地震速報受信音声

表現	開始音声及び繰り返し音声	最終音声
詳細	「地震_震度●_△秒後」	カウントダウン
曖昧 1	「地震_◆_◎」+「★オリジナル報知音」	カウントダウン
曖昧 2	「地震_◎」+「★オリジナル報知音」	--

●: 気象庁震度階級の「震度 1 ~ 7」	△: 猶予時間 (※最大読み上げ音声 50 秒)
◆: 震度階級あいまい表現	◎: 猶予時間あいまい表現
・震度 1 ~ 3 の場合「小さな揺れが」	・ 0 ~ 1 9 秒の場合「すぐに来ます」
・震度 4 ~ 5 強の場合「物が倒れるぐらいの揺れが」	・ 2 0 ~ 2 9 秒の場合「まもなく来ます」
・震度 6 弱 ~ 7 の場合「命にかかわるほどのゆれが」	・ 3 0 秒以上の場合「もうまもなく来ます」
★: 「オリジナル報知音」	津波
・震度 1 ~ 3 の場合「ビ」	津波警報、大津波警報、津波注意報
・震度 4 ~ 5 強の場合「ビ・ビ」	
・震度 6 弱 ~ 7 の場合「ビ・ビ・ビ」	

- ① 地震受信: SH600-J の表現に合わせて音声を出します。
SH600-J の設定が詳細ですと SH600-J-S も詳細表現で音声を出します。
- ② 訓練報及びテスト動作: 全ての冒頭に「地震」の代わりに「配信テストです」を挿入します。
- ③ キャンセル報受信: 「緊急地震速報を解除します。」
- ④ 津波受信: 「津波警報発令」/ 「大津波警報発令」/ 「津波注意報発令」
3 つ津波情報から受信した情報をそのまま繰り返して音声を出します。
繰り返し音声は津波解除又は SH600-J からの CLEAR されるまで続けます。
- ⑤ 津波解除 / 津波取消: 「発令・発報を解除します。」/ 「先の発令・発報は誤報です。」

仕様

ご注意

仕様

DPASS 緊急地震速報受信端末 本体（親機） 《 SH600-J 》			
名 称	DPASS 緊急地震速報受信端末		
品 番	SH600-J		
価 額	オープン価格 ※別途緊急地震速報及び津波情報を受信するには別途配信料がかかります。		
本体外形寸法	巾 220mm、高さ 69.2mm、奥行き 220mm （突起部除く）		
重 量	1.9Kg		
電源電圧	DC12V AC アダプタ使用（出力：DC12V, 1000mA 以上）		
消費電力	待受 2.0W 最大 3.4W		
温湿度条件	操作時 0 ～ 40℃ 非動作時 -10 ～ 60℃ 湿度 10 ～ 80%RH 結露なきこと		
電文受信方式	IPv4 インターネット常時接続環境での TCP/IP 方式		
出力	外部制御出力 (DO 1/2/3/4)	無電圧ループ接点出力（A 接点, B 接点 設定可能）	
		定格電圧：38V, 最大ピーク電圧：60V	
		定格電流：1000mA, 最大ピーク電流：1000mA	
	内臓音声出力 (SPEAKER)	2W	
	外部音声出力 (LINE OUT)	RCA-MONO, 出力電圧：800mVp-p Max., 5dBm(最大)/100K Ω不平衡	
	信号出力 (DEBUG)	TTL レベル、多段接続時の信号出力	
入力	電源 (DC IN)	AC100V (50/60Hz) DC12V-1000 m A	
	外部音声入力 (LINE IN)	RCA-MONO, 入力電圧：800mVp-p Max., 100K Ω不平衡	
	ネットワーク (RJ-45)	10/100Base-T 配信サーバーとの通信ポート：9001	
	外部接点入力 (DI1/2/3)	電圧ループ接点出力に対応。 出力電圧：5V, 出力電流：5mA	
表示 / 操作音	LCD 部 (INFORMATION)	端末設定情報および電文受信内容を表示	
	赤 LED (POWER)	電源供給状態およびハードウェア接続状態の確認	
	緑 LED (STATUS)	ネットワーク接続状態および電文受信の確認	
	ブザー	ボタンの操作確認音	
接続コネクタ	電源	外径：6mm, 内径：2mm	
	LINE OUT	RCA ピンジャック	
	LINE IN	RCA ピンジャック	
	DG-SERIAL	φ 3.5 4 極ジャック	
	DO	スクリューレス 3.5mm ピッチ	
	DI	スクリューレス 3.5mm ピッチ	

本書についての注意

1. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一不備な点や誤りなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、弊社に無断で使用できません。
4. 本製品の仕様、価格、外見などは予告なく変更することがあります。
5. 本製品は、日本国内での使用を前提に設計したものです。海外では使用しないでください。本書に記載されている社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

NO	発行年月日	版 数	記載変更内容
1	2013 年 09 月 02 日	初版 (V1.00)	初版発行
2	2013 年 10 月 07 日	第二版 (V1.01)	ページ 38 NHK 音声震度表示修正
3	2013 年 12 月 03 日	第三版 (V1.02)	バージョンアップによる機能追加 (ページ 37PROXY 説明追記)
4			
5			

販売元

株式会社アース・キャスト

URL <http://www.earthcast.co.jp>

E-mail dpass@earthcast.co.jp

開発製造元・配信業者

株式会社ドリームウェア

URL <http://www.dpass.jp>

E-mail 1nf0@dpass.jp(イチエヌエフゼロ)

(平日10:00～17:00 ※土・日・祝日・年末年始除く)